



編集発行者
千葉大学医学部
るのほな同窓会報編集部
〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1
千葉大学医学部内
るのほな同窓会
電話 (043) 202-3750
FAX (043) 202-3753
e-mail : info@inohana.jp
HP : http://www.inohana.jp/

千葉大学医学部同窓会報 第157号 題字 故 鈴木五郎 (大11卒 元るのほな同窓会長)

3月11日に発生した東日本大震災による、犠牲者の方々のご冥福をお祈り申し上げますと共に、被災された皆さまに、心からお見舞い申し上げます。

東日本大震災の発生当日から、千葉大学医学部附属病院では、下記のような救援活動を行っております。



DMAT (Disaster Medical Assistance Team)
3月11日から17日まで水戸協同病院、仙台医療センター、宮古病院のそれぞれにて、千葉大学医学部附属病院のチームが救援活動を行いました。(写真)



第一次医療救護班は、3月16日から31日まで石巻赤十字病院にて、第二次医療救護班は、4月2日から南三陸町避難所にて、心のケアチームは3月29日から東松島市にて救援活動を継続中です。また、救援物資輸送が東北大学、陸前高田市、福島県立医大に対して行われています。

(詳細は22面をご覧ください)

「るのほな同窓会」
総会開催のお知らせ

平成23年度るのほな同窓会総会を左記により開催いたします。

- 日時 平成23年6月18日(土) 15時半より
- 場所 東京ステーションコンファレンス (東京駅八重洲北口サビアタワー)
総会 402A 懇親会 602B
電話 03-6888-8070
- 総会次第 15:30
- 会長挨拶
 - 議長選出
 - 議事

①名譽会員の推薦について
②年次活動について(報告事項)

①庶務部報告
②事業部報告
③平成22年度決算について
④監査報告
④平成23年度事業計画について
⑤平成23年度予算案について
⑥役員の選出について

①会長、副会長、参与、監事
②理事

③常任理事(理事会を総会と兼ねる)
④評議員

⑦新るのほな同窓会館設立事業について
⑧その他

記念講演 16:40

千葉大学医学部附属病院長 宮崎 勝先生

「千葉大学医学部附属病院の役割と使命」
―特に外科領域から 経験した今後の展望―

懇親会 18時より
会費 一万円
学生会員は無料
(当日受付にて申し受けます)

返信用葉書にて出欠の返事をお送り下さい。その際、個人情報保護のために同封のシールをお貼り下さい。

なお、ご返事のない場合は、総会の議決を議長に一任いただきます。

(6月7日必着)

紙面紹介

総会開催のお知らせ	7	2
就任挨拶	17	14
叙勲感想	18	16
最終講義	16	13
各地るのほな会	11	10
クラス会	11	10
追悼文	11	10
研修プログラム	11	10
研修医だより	11	10
白衣式	11	10
著書紹介	11	10

オンライン会報
入学者名
人事異動
議事報告
救援活動
卒後研修先
会館設立
雑文雑談
学内情報
編集後記

24
20
32313130232221212019

学 長 再 任

齋 藤 康



ろのはな同窓会の方々に、日ごろご無沙汰申し上げておりますことをお詫び申し上げます。

医学研究院・医学部・附属病院の先生、職員の方々の多大なご支援により、4月よりさらに3年間、学長を勤めさせていただくことになりました。このような機会をつくっていただきま

したことを、改めて御礼申し上げます。今までのほぼ3年の間、大学にはいろいろな意味で難問が山積したときでもありましたが、先生方、職員の方々の絶大なご支援により、どうか努めさせていただきました。特に来年度予算については、これからの国会での審議を経なければなりません。政府予算案につきましては、政局の不安定さもあり、財源の問題もかかえることもあり、その確保はきわめて悲観的な予想でした。しかし、新聞紙上で報道されましたように、比較的その減額は抑えられたという報道ですが、どのように解釈すればいいか迷うところでもあります。幸いなことに病院は河野陽一病院長はじめ先生、職員のご努力で、外来棟などの改築をはじめ病院機能の改善のための予算が措置されています。その理由のひとつには、その経営、機能についても日本でトップ集団に位置する有数の病院にランクされるところにあると思っております。さらに優れた先端医療とい

うことに加え、未来の医学を創造するための機能にも力を入れ（G-COE中山俊憲教授）、工学部との連携（フロンティアメデイカル工学研究開発センター）も積極的に取り組まれています。医学研究院でも中谷晴昭研究院長のご指導で、昨今の医療問題のひとつである社会問題も含めて精神科領域の研究についても全学的展開（社会精神保健教育研究センター伊豫雅臣教授）、他大学との連携をとるプロジェクト（子どものころ発達研究センター清水栄司教授）に予算を獲得、さらに未来の子どもの健康についての15年以上にわたる研究（エコチル調査

森千里教授）の採択などがあり、地域との密接な連携にも取り組まれています。今、科学研究のチームも大学においても、その発展にはいろいろな分野が集まる複合領域の創成が必須であるとされています。すなわち、いろいろな専門領域が集団をつくることの重要性であると思えますし、そのような集団の力は、今、世界的に評価されているところとされています。千葉大学は総合大学であり、医学領域の展開も専門家集団が欲するような学部間の連携を積極的に支援する環境をつくりたいと思えます。今後とも先輩方のご指導ご鞭撻をお願

いして再選のご挨拶とさせていただきます。

はその日のうちに東北大学や東北地方の病院へ医療支援を開始されました。このような行動には社会からも高い評価を受けているところでもあります。すでに国、県からも医療について要望が寄せられることをお聞きしています。原発事故のこと、停電のこと、通信手段の被害、いろいろな公共施設の被害などにより後期入学生試験、卒業式、など多くの大学の行事の変更とその対策、新学期への対策など日々教職員みんながんばっているところです。ろのはな同窓会の先生方のご無事をお祈りしますとともに地震についての大学の近況をお伝えいたします。

平成22年度千葉大学医学部卒業証書伝達式・祝辞

3月23日 於 医学部第一講義室

ろのはな同窓会長 伊藤 晴夫 (昭39)



皆さん、ご卒業おめでとうございます。ご家族の皆様も、本当におめでとうございます。今般の大震災の

被害を受けられた方々は本当にお気の毒であり、皆さんのご親類、お知り合い等にも被害に合われた方もおられようかと思えます。一日も早い復興を切にお祈りするものであります。皆さんも、その混乱の中、卒業の日を迎えられ、複雑な思いとともに、何か心に期す

るものもあるのではないかとお見受け致します。皆さんは、これまではろのはな同窓会の学生会員、今日からは正会員でありまして、これは、ろのはな同窓会としまして大きな喜びであります。ろのはな同窓会はその規模と歴史において、全国の医学部の中でも屈指

の同窓会です。明治、大正の昔から、ろのはな同窓会には全国に、各地区のろのはな会がありまして、皆さんも、将来どこへ行っても、さつと力になってもらえま

た同窓会報を年3回お届けしておりますので、是非お読みになって下さい。これは800部以上という膨大な部数です。さらに、最近ではホームページの充実にも力をいれております。動画なども取り入れております。特に、皆さんのような若い会員には興味を持って貰えると思えますので、積極的なホームページ作りへの参加をお待ちしております。ろのはな同窓会のもう一つの目的である医学部の支援

につきましては、現在でも、同窓会は、図書館や雄翔寮への助成、課外活動、東医体の支援、留学生の支援など幅広く助成をおこなっております。更に卒業後も各支部への支援の他に、医療活動の支援や、研究活動の助成などを行っております。これからは、皆さんが千葉大の後輩達、あるいは母校を支援するのだ、という意識を是非身に付けて頂きたいと思えます。千葉大学医学部は一昨

年、創立135周年を迎えましたので、現在、その記念事業を行っております。この事業には、本日ご出席を賜っております後援会の皆様、すなわち学生のご家族の皆様からも、経済状況の厳しいなか、多額のご支援を頂きました。ここに改めて御礼申し上げます。近日中に立派な135周年記念誌が刊行されます。本事業の中心核である新同窓会館設立に

し、現在、本年中の着工を目指して準備を進めております。この場所は、ゐのはなキャンパスのほぼ中心に位置しており理想的な場所だと思えます。現会館は幸い今回の大震災では倒れずに済んだようですが、老朽化が進み、火災や震災時の危険性から、合宿など夜間の使用は禁止されており、

ご不便をおかけしております。同窓会館は、サークル活動など学生の種々の活動に必須であるだけでなく、教職員、先輩達との交流を通じた人間形成にとっても大切な場所であります。そこで、第一期工事としては、同窓会事務室はもとより、サークル活動等に向いた多目的ホール、合宿

施設を中心とした建物を建設することになりました。現在、遺跡調査・地盤調査も終了し、設計図の最終案を練っているところです。完成の暁には、卒業生の皆さんの親睦にも是非役立てて下さい。

皆さんはこれから臨床、研究、行政など種々の領域に進んで行きますが、皆さんの前には素晴らしい未来と可能性が広がっています。学部長、病院長を初めとする教職員の皆様方の献身的な教育により、また当然卒業生の皆さんの自己修練により、皆さんはどこに出ても恥ずかしくない医師一年生に育っています。忘れてならないことは、皆さんがここまで来られたの

は、種々な点で恵まれていたからです。世界中には、戦争や貧困のために、勉強はおろか食べることにさえ困っている子供、若者がたくさん居ることに思いをはせて下さい。特に、本日、多くのご家族の方々がご臨席されており、このように恵まれた家庭環境に育ったことに感謝すること

を忘れないで下さい。そして、これから医療に携わる者の心構えとして、常に弱者への配慮を基本にすえて考へ行動して下さい。今回の大震災につけても、皆さんもいろいろ考える所がお有りかと思えます。医師は多くの点で積極的に社会に貢献することが出来ます。皆さんも、その潜在力を、

社会を良くするように使ってください。ご存知の通り、千葉大学医学部の卒業生には種々の領域で世界的な業績を挙げている方が多数いらっしゃいます。皆さんもこれを追い越すような意気込みで進んで下さい。以上、簡単ですがお願いも含めお祝いの言葉とさせていただきます。

医学研究院長再任挨拶

薬理学 中谷 晴 昭 (北大・昭49)



このたび、平成23年4月1日より医学研究院長ならびに医学部長を更に2年間務めさせて頂くことになりました。去る平成23年3月11日に東日本を突如襲った東日本大震災と巨大津波、それに続く原子力発電所事故と、私達の日本は未曾有の国家的危機に見舞われて

て、日本の将来が全く読めない状況となっておりません。このような極めて困難な時期に、この長い伝統を持つ千葉大学医学部の医学部長を務めさせて頂きま

す。国立大学の法人化から既に7年が経過し、千葉大学も第2期中期目標・中期計画の期間に入っておりま

す。法人化以後国立大学法人に対する国からの運営費交付金は毎年1%程度減額されて来ましたが、政権交代後も昨年度は14%の減少、平成23年度も附属病院のある大学の運営交付金は1.3%の減少と、運営費交付金の削減がとどまることを

知らず、その上、国立大学法人には「大学の機能別分化」と「組織改革」も求められております。法人化以降、医学研究院では既に14名の教員数削減が実行されました。臨床系教員の削減は附属病院の経営へ影響する可能性を無視できなかつたため、それらは基礎系教室教員数の削減で対応して来ましたが、しかしながら、基礎系教員の減員は限度に達しており、これ以上の削減は基礎医学系教育・研究に影響を与えかねないレベルに達しています。また、地方を中心とした医師不足が顕在化し、千葉県も人口当たりの医師数は全国で最低の県のひとつであること

から、本学医学部では今年度から医学部入学生定員を更に5名増員して1学年120名と歴史的に見ても最大の学生定員となりました。このように学生定員の増加と教員数の減少という相反する変化は、教育・研究活動の著しい低下を招く恐れもあり、今後何らかの対応が必要な状況となっております。

全国的に研究医が減少していることが指摘されています。それは世界における日本からの医学論文数の相対的減少として表れ、今後の日本の医学・医療の発展を考慮すると非常に大きな問題であると言わざるを得ません。特に基礎医学分野での研究医の減少は著明であり、病理学、法医学といった医師免許が必要な分野は多くの大学で危機的な

状況となっております。本学も、東京大学を中心とした関東4大学からなるコンソーシアムに参加し、研究志向の学生を集めたリトリート開催などを通じて、基礎研究医養成に努力しております。また、医学部入学生後もなく基礎医学や臨床医学の教室に配属され医学関係の論文を読みながら実験研究を経験するというスカラシッププログラムを開始して、早い段階から医学研究の面白さや大切さを体得してもらおうようにしております。今後、より一層基礎系教室と臨床系教室の大学院生や教員の交流を盛んにし、若手研究者を積極的に育成して研究の活性化を図って参りたいと思っております。

卒業研修が必修化されてから、大病院において研修を受ける卒業生が減少致しました。本学も例外ではなく、新聞等で報道されるマッチングによる初期研修医希望者数は全国大病院の中では平均以下の数字となっております。幸いにも後期研修医として本学医学部附属病院を選択し、入局してくれる医師数はここ2年間約120名に達しており、卒業生を含めてかなりの人数が戻ってきてくれますので、大きな問題とはなっていませんが、人口当たりの医師数が非常に少ない千葉県にある唯一の医学部としては、一人でも多く大病院を研修先として選んでくれることを願っております。また、附属病院では新年度から研修医の臨床教育を主体的に行う教員を配置することに努めており、このことにより医学部生の

ベッドサイドにおける臨床実習もより充実したものとなると思われま

す。医学部のカリキュラムも全体の前倒しが必要になっております。本学では平成12年度より学士入学制度 (MD-PhD) が導入されましたが、それが3年次編入であるため、本格的な医学専門教育の開始が3年次となっております。昨年9月、米国の ECIMG が2023年から、アメリカ医科大学協会あるいは世界医学教育連盟が認定した医学部の卒業生でなければその受験を認めないという通達を出しました。これは、この認証制度によって認められた大学の卒業生でなければ、米国等での医療活動が出来なくなることを意味します。日本の医学

(次面につづく)

附属病院長就任挨拶

臓器制御外科学 宮崎 勝 (昭50)



2011年4月1日付けで病院長を拜命致しました。2001年4月より臓器制御外科学教授としてこれまで外科診療・研究・教育を中心に仕事をして参りました。私自身は専門である肝胆膵外科を中心に教室のもう一つの担当である乳腺甲状腺外科を加えてその診療レベルの発展に努めて参りました。2005年よりは齋藤康病院長(現学長)の元、副病院長として病院運営とくに医療安全管理部長を拜命して参りました。その後河野陽一病院長の元でも副病院長として4年間間合せて計6年間副病院長として病院執行部に加わらせていただきました。さらに2007年からは手術部長を担当して手術部から外科系全体の病院の動向についてもよく知る機会を得てきました。この経験の過程で千葉大学医学部附属病院がいかに大きな

組織体であるかを実感させられると同時に病院の運営がそこで働く極めて多くの人々、その一人一人の力の集合体として機能していることがよく理解できました。千葉大学医学部附属病院で働いておられる多くの人が極めて高い個性を持った専門性の極めて高い個人である事が強く感じることが出来ました。しかしながら各個人の能力がいかに有能であっても、また勤勉であってもそれを一つに束ねて大学病院としての本来あるべき方向に向かっていくことなしには大学病院としての大きな組織としての充分な力を発揮して社会に貢献する事は出来ないと思われまふ。そこで病院長として最も大切な点となるのがこの国立大学医学部附属病院の日本の医療における役割をどのように認識して行くかだと思います。日本の社会から大学病院に期待される役割をどのようなものかは勿論時代と共にある程度変化するものかもし

れませんがその本質的な役割は依然変わっていないように思いますし変わるべきではないかと自身は認識しております。その役割とは大きく分けて考えると三つあるかと思えます。第一が診療面での役割として高難度医療の実践でありまふ。地域病院では中々行い難い、国内外をリードできるような高難度の医療を多数の専門集団の人材を抱えている大学ならではの診療を積極的に行っていくことです。診療面でのこのような姿勢は解りやすく申しあげると昨今よく言われている「evidence-based-medicine」でありまふが、その「evidence-based-medicine」のつとった診療がガイドラインとして多く出版されています。大学病院ではこの診療ガイドラインを守って診療を行うのではなくこれからのガイドラインの基となる新たな「evidence」を創生する臨床を開発して行っていくのが責務でしょう。つまりガイドラインを遵守するのではなくガイドラインを作る側であることを

認識して診療並びに研究を行っていくべきです。勿論このような診療を行っていくには昨今の医療情勢では患者さんとの信頼関係の問題から大変な忍耐と責務が必要とされます。しかしその責務の遂行および成就した際の達成感や格別なものがあると思えます。大学で学び大学にて勤務する医師達は常にこの姿勢を持って診療・研究さらには後輩への指導を行っていくべきと考えまふ。さらに第二の役割はこれからの先進的医療を行うための開発研究であり基礎医学での研究成果を活かすためのいわゆる「translational research」の臨床応用です。さらには臨床治験や受託研究を盛んに行っていく産学共同研究なども可能な限り戦略的に行うことでありまふ。また第三の大学病院の役割は質の高い医師を育てていく教育病院としての役割でしょう。この質の高い臨床医というのは単に専門性のレベルにおける高さというものばかりではなく、大学において教育を受ける若い臨床医の多くが将来一般病院で活躍していくという事実の元に考えてみると、臨床医として高い資質を醸成するため

にArt, Science, Heartの全ての面においてその教育を徹底的にたたき込む役割を担っていく主体として大学がその中心的役割を果たしていくべきと考えまふ。単なる技術の習得でもなく、また医療をマニュアル化するなどでもなく常に患者さんに対して高い教養と学識を併せ持った医師を育成していくという理念を持って教育を行っていくべきかと考えています。また医師以外の「Companion」の医療人の方々の教育にも大学病院はその中心的役割を実践して行っていくべきでしょう。このように挙げた大きな三つの役割はどれもこれも極めて重要なものでありどれか一つを優先させることは出来まふ。又このような大学病院の役割をしっかりと認識して他のいかなる課題にも惑わされたりせず常にこの意義を大学病院の最も重要な役割として実践していくことこそ重要とす。その結果が大学病院で勤務する全

ての医師の高いプライドを初めて醸成していきけるものと考えています。大学病院で勤務する全ての人々が日本の医療における大学病院のこの多様なかつ特異的な役割を十分に認識して、また一方では領域、職種異なる様々なグループの存在意義をお互いが充分認め合せて仕事をしていくことが重要な点でもあります。大学病院の勤務者すべてがこのような姿勢をもって共通の価値観をもって仕事をやっていけば千葉大学医学部附属病院をさらに大きく飛躍、発展させることが出来ると思っております。その結果、国民への高度かつ良質な医療の提供が行い得、さらには医療および医学の進歩に大きく貢献出来るものと信じています。千葉大学医学部附属病院の発展に微力ながら全力で取り組んで行きたいと願っておりますので、おのほな同窓会の皆様のご支援をお願い申し上げます。

獨協医科大学学長に 稲葉憲之(昭47)氏就任

(中谷先生のつづき)
部の中でこの認証制度で認められた大学はまだありませんが、その一つの認定要件は約2年間(72週)にわたる臨床実習であるとされています。従いまして、この認証を得るには現在5年生から本格的に開始している臨床実習を4年の後期に開始しなければならなくなり、おのずと学士入学者の入学時期に関わらず、カリキュラムの前倒しを半年程度行わなければならないようになります。先に述べました研究マインドを育成するためのスカラーシッププログラムの充実と共に、臨床実習の充実化とその前倒しは待たなしの医学教育改革と思われまふ。
このように千葉大学医学部を取り巻く環境は極めて難しい状況にありますが、しっかりと将来を見据えて、宮崎勝新病院長と共に教職員の皆様と力を合わせて進んで参りたいと考えております。元より浅学非才の身ではございますが、全身全霊を捧げ努力致したいと存じますので、同窓会の先生方の皆様には更なるご指導とご支援を切にお願い申し上げます。

就 任 挨 拶

千葉大学大学院医学研究院
循環病態医科学

教授 小林 欣 夫 (昭63)



平成23年2月1日付けで、小室一成前教授(現大阪大学循環器内科学教授)の後任として千葉大学大学院医学研究院循環病態医科学(旧内科学第三)講座教授を拝命いたしました。おのほな同窓会会員の皆さまをはじめ多くの方々にご支援賜り、心より感謝申し上げます。

私は昭和63年に千葉大学医学部を卒業し、稲垣義明教授(昭26)が主催される第三内科に入局しました。循環器領域には、心電図、心エコー、心臓カテーター検査など多くの診断方法があり、その一方で急性心筋梗塞や重症心不全の症例が治療により劇的に病状が改善することから、学生の頃から循環器内科を自分の専門分野にしようと考え

ていました。千葉大学での2年間の研修の後は、坂口明先生(昭48)が高血圧科助教授として赴任された自治医科大学附属大宮医療センター(現さいたま医療センター)に勤務しました。その後はさらなる循環器臨床の研修とともに、臨床研究を行うために国立循環器病センター内科心臓血管部門のレジデントとなりました。ここは、循環器疾患のみに対して64床を有するために、非常にまれな疾患も多く経験することができました。また、全国の大学からレジデントが集まるために、日本全国に人脈を得ることができたことも大きな財産です。

5年間の国立循環器病センター勤務の後は、冠動脈ステントの権威であるコロンボ教授が在籍するイタリアマミラノにあるコロンボ心臓病センターに留学しました。ここで、心血管インターベンションならびに血管内超音波の研究を行いま

した。その後、1年半の千葉大学勤務を経て、ニューヨークマンハッタンにあるレノックスヒル病院ならびに心臓血管研究所にて臨床研究を行いました。そこで、これまでの研究成果が認められ、心臓血管研究所の血管内超音波ラボの副部長となり、1年後には部長となり、自分のラボを持ち世界各国よりの留学生の指導もしながら研究を行ってきました。

平成15年に千葉大学に帰局した後は、当科の臨床のアクティビティを上げることに努めました。開業医・病院勤務の先生方と病診連携の会を立ち上げ、緊急症例の受け入れを積極的に行い、地域医療にも努めてきました。経皮的冠動脈形成術施行症例数は、平成15年度は114件であったものが、平成21年度は353件と国立大病院ではトップクラスとなりました。

今後は、地域医療から最先端研究まで、と大きな目標に向かって精進する所存であります。医学部の役割は、臨床・教育・研究と言われますが、この3つすべてを医局員全員が同じように行っていくのでは、すべてに十分な時間が取れることは不可能であり、小さ

くまとまってしまうと思います。先程の大きな目標を達成するためには、医局員がそれぞれの得意なところを担当する分業が必要と考えています。すなわち、臨床担当は最先端の臨床を行い、大病院に行けば千葉県で一番の医療を受けられることを実現し、研究担当が最先端の研究を行い、世界に向かって発信し、教育

平成22年11月1日付けでフロンティアアメディカル工学研究開発センター教授を拝命いたしました。整形外科同門の諸先生、おのほな同窓会の諸先生のご支援に心より御礼申し上げます。

私は昭和60年に千葉大学を卒業し整形外科に入局し、故井上駿一先生、守屋秀繁先生、高橋和久先生の三代の教授のもとで臨床と研究のご指導をいただいた参りました。整形外科における医工学の関わりは、昭

担当が学生・研修医の教育を充実させ、医局員確保に努めるようにします。このような体制ならば、地域医療から最先端研究まで、は夢ではありません。これを實現するために全力を尽くします。おのほな同窓会の皆さまにおかれましては、今後尚一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

和60年に故井上駿一先生が旧川崎製鉄と日本人の解剖学的形状に適した人工膝関節の開発を開始したことに始まり、その後ナカシマメディカル株式会社に人工関節の製造を移管して平成6年より守屋秀繁先生のもとでHitec knee systemとして臨床使用が行われました。現在までに約1,500例に使用されており、その臨床成績は良好です。私は平成11年に大学に戻り人工膝関節の臨床と研究に携わり、千葉大学や京都大学工学部などの先生と共同研究を行って参りました。人工膝関節の摺動面は超高分子量ポリエチレン・チタン合金またはコバルト合金の組み合わせ

せからなり、生体内で使用していると超高分子量ポリエチレンが摩耗して再置換手術が必用となります。この超高分子量ポリエチレンの性能を向上させる研究を行い、ビタミンEを添加してポリエチレンを製造すると摩耗量が減少することがわかったため平成16年より千葉大学医学部附属病院で臨床試験を行いました。その後の臨床経過に問題がないことから、平成18年にナカシマメディカル株式会社が医療機器製造販売承認申請をして、平成22年2月より市販されています。

フロンティアアメディカル工学研究開発センターは平成15年に磯野可一元学長の

もとで創設され、齋藤康学長からも多大なご支援をいただいております。既に、下山一郎先生が脳波やfunctional MRIの研究で、五十嵐辰男先生が内視鏡の画像処理や手術器具の研究で、林秀樹先生や川平洋先生は蛍光性生体プローブをセンテイナーリンパ節の解析に応用するなど、優れた成果を上げられています。私は、今後、生体材料やバイオメカニクスの分野を中心として医工学の発展に貢献していきたいと考えています。これからも、おのほな同窓会の諸先生のご指導ご鞭撻を賜りますように心よりお願い申し上げます。

ただくとも、ご挨拶をせずにおりました失礼をお許しいただきたく存じます。

私は小学校から高校までを東京教育大学附属(現在の筑波大学附属)で過ごし、その後千葉大学に進みました。昭和60年に卒業と同時に、故井上駿一教授のもとで脊椎外科を勉強したいと考え、千葉大学の整形

千葉大学フロンティアアメディカル工学研究開発センター

教授 鈴木 昌 彦 (昭60)



帝京大学

ちば総合医療センター整形外科学

教授 豊 根 知 明 (昭60)



平成18年4月1日に帝京大学医学部整形外科学(帝京大学ちば総合医療センター)の教授を拝命いたしました豊根です。今回この5年間のご報告をさせてい


ます。

私は小学校から高校までを東京教育大学附属(現在の筑波大学附属)で過ごし、その後千葉大学に進みました。昭和60年に卒業と同時に、故井上駿一教授のもとで脊椎外科を勉強したいと考え、千葉大学の整形

外科学教室に入局。5年間
の研修の後平成2年からの
3年間、大学で主にMR
Iを中心とした画像診断
や、椎間板内療法動物実
験を行いました。その際
に指導いただいたのが高橋
和久先生(現教授)で、整
形外科では最も権威ある
Journal of Bone and Joint
Surgeryへの原著論文2編
の掲載、アリゾナでのLy-
man Smyth Award(国際
椎間板内療法学会賞)の受
賞など、研究すること、発
表することの楽しさを大脳
に刻みこんでいただきました。
このことがその後10年
間勤務した君津中央病院に
おいても臨床研究を継続す
る原動力であったと思いま
す。そして田中正先生(現
副院長)のもと、脊椎外科
医として研鑽を積みまし
た。平成16年の秋、守屋秀
繁教授(現名誉教授)から
いただいた1本の電話で人
生が変わりました。「東京
に行ってくれ、同門を代表
してお願ひする」というお
言葉は今も忘れません。平
成17年1月に助教として
赴任いたしました。翌年の
4月に和田佑一教授が当セ
ンターの病院長に就任され
たことにともない、教授を
拝命いたしました。赴任
後、日本整形外科学会学術

プロジェクト研究やアメ
リカ整形外科学会のBest
Poster Award受賞、海外
での教育講演に対して整形
外科領域で世界最大級のN
P OであるAO Spineの
Young Faculty Award受
賞などの機会を得ました。
さらに、教授拝命後最初に
科学研究費を獲得した多血
小板血漿を用いた脊椎固定
術に関する基礎研究は、千
葉大学整形外科大島精司先
生のご協力とご指導のも
と、千葉大学ベンチャービ
ジネストラボラトリー研究プ
ロジェクトとなるまでに至
りました。来年予定されて
いる日本内視鏡低侵襲脊椎
外科学会の会長をはじめ、
さまざまな研究や臨床にお
きまして、高橋教授をはじめ
めとする千葉大学の先生方
の応援をいただきながら、
これからもがんばってゆき
たいと思っております。
この5年間をふりかえつ
てみますと、外に出てか
えって母校への感謝や思い
が強くなったと思います。
親元を離れてわかるありが
たさです。最後に、この5
年間、当センター整形外科
が順調にやってこられたま
したこと、個人的には頸椎か
ら腰仙椎までのあらゆる脊
椎手術を無事に行つてこら
れましたことに、近隣をは

じめとするものは同窓会
の皆様から感謝し御礼
申し上げます。今後とも何
れも申し上げます。
北里大学医学部整形外科学
教授 高相晶士(平元)



平成22年10月1日をもち
まして、北里大学医学部整
形外科学主任教授、そして
北里大学医療系大学院教授
を拝命いたしました。多く
の方々を支えていただ
き、この大役をおおせつか
ることとなりました。この
機会は、今まで、私に関
わっていただいた多くの皆
様のおかげであります。こ
の場をお借りして同窓会の
皆様へ深く感謝の気持ちを
申し上げますと思ひます。
これから約20年にわた
り、さらに整形外科学とい
う分野を通して、社会に貢
献することができると思
うと大変楽しみであると思
ひます。身を引く締めまる
思いです。これを機会にま
すます精進したいと決意を
新たにしておりますので、
どうぞ宜しくお願い申し上
げます。

私には平成元年に千葉大学
を卒業し、当時の守屋秀繁
教授の主宰される伝統ある
千葉大学整形外科学教室に
入局させていただきました。平成
8年に千葉大学大学院を修
了いたしました。本当は優
秀である先輩方が口をそろ
えて、「学生時代は全く優
秀ではなかったのですが
……」と謙遜しておっしゃ
います。私は本当に優秀
ではなかったもので、立派な
ことは申し上げることはで
きません。しかし、心がけ
て参りましたことは、与え
られた仕事をしっかりとこ
なし、信頼していただくよう
に努め、次の仕事を与えて
いただくように心がけて参
りました。
私が医師になった平成の
初期は現在のような臨床研
修医制度がなく、卒業すぐ
入局しましたので整形外科
医として22年が経過しまし
た。しかし、人間学も整形
外科学もとても奥が深く、
主任教授になった現在で
も、なかなか一人前になる
ことができないと感じるの

が実感です。まだ勉強が足
りませんので、これからも
さらなるご指導ご鞭撻のほ
どをお願い申し上げます。
私は、入局後1年目から
一貫して、整形外科のなか
でも脊椎・脊髄外科、脊柱
変形、脊椎インストゥルメ
ンテーションの臨床と研究
に関わらせていただいて参
りました。この分野は整形
外科分野では最も難易度も
高く、手術も外科系のなか
でも最大規模であり、体力
が必要です。また、たいへ
ん奥が深く、ライフワーク
とするのにふさわしい高度
専門分野です。私はこの領
域の研究と臨床をますます
極めるための努力を継続し
たいと思っております。
私は縁あって、5年前よ
り北里大学にお世話になつ
て参りました。北里大学は
かの日本を代表する医学者
である北里柴三郎博士を学
祖とする創立40周年を迎え
る勢いのある研究所・大学
です。本部が東京都港区白
金に、そして医学部キャン
パスは政令指定都市になり
たての神奈川県相模原市に
あり、4つの付属病院を有
する生命科学の総合大学で
す。3年後にはおそらく日
本一となる新大病院が完
成する予定であり、上昇気
流にのったすばらしい生命

科学の総合大学です。病院
の診療レベルはつねに世
界を目指しております。
このような大学で教育・診
療・研究を続けることがで
きることは大変光栄であり
ます。これからもますます
力を尽くし、社会に貢献し
ていきますので、私のご挨拶
とさせていただきます。
お近くにお越しの折には、
北里大学に是非いらしてく
ださい。
今後、私は、教育、臨床、
研究そして人のお付き合
いにおいて、義理と人情、
信頼、尊敬、人間愛を大切
にしていきたいと思ひま

す。機会があるたびに、
のほな同窓会にもますます
貢献したいと思つてお
ります。重ねて、これか
らますますご指導ご鞭撻の
ほどお願い申し上げます。
追伸
東日本大震災におきま
して、特に東北地方の皆様
におかれては心よりお見舞
い申し上げます。私たちは早
期の復興を心よりお祈り申
し上げます。私たち医療に
携わる者たちは今後も引き
続き可能な限りの協力と援
助に尽力させていただきます
と思っております。

平成23年度科学技術分野の
文部科学大臣表彰
科学技術賞(研究部門)
「細胞移植への応用を目指した
間葉系幹細胞の研究」
東北大学大学院医学系研究科
教授 出沢真理(平元)

叙勲、褒章、その他祝辞に関係さ
れた方は是非、同窓会事務室までご
一報ください。

日本病院会の会長になつて

日本病院会会長・
聖隷浜松病院院長
堺 常雄(昭45)



この度の東日本大震災にあたり被災者の皆様にはお見舞い申し上げますとともに犠牲者の皆様に心よりお悔やみ申し上げます。日本病院会はあらゆる支援をさせていただきます。

昨年4月より日本病院会の会長を拝命し1年が経過したので、今までの振り返りと今後について述べてみたいと思います。

最初に簡単な自己紹介をしますと、私は昭和45年の卒業です。のほな同窓会の寺澤捷年・済陽高徳両副会長と同級になります。学生時代に植村研一先生の影響を受け学部の3年に脳神経外科志望を決め、卒業と共に相模大野の米國陸軍病院で1年のインターンを行い、その後8年間米国で脳神経外科の研修を受けました。1979年に帰国、浜松医科大学脳神経外科(植村研一教授)で世話になり、1981年に聖隷三方原病院、1992年

に聖隷浜松病院に移り現在に至っています。

日本病院会は、2007年4月に山本修三前会長の2期目に副会長として務めることになり、その時には山本体制1期目から副会長の職にあつた大井利夫、村上信乃両先輩から多大なご指導・ご教授をいただきました。

我が国には多くの病院団体がありますが、その中で日本病院会は今年設立60周年を迎え、会員数2503病院(2011年1月現在)で最大の病院団体であり、しかもあらゆる設立母体・提供する機能・病床規模・地域の会員を擁しています。ところが永年続いた医療費抑制政策の結果、多くの病院で経営が困難になり、また勤務医の疲弊が言われ、病院団体も厳しい状況になっています。会長職を引き受け、この様な時だからこそ会員

病院あるいはその先にいる利用者の皆さんのニーズは何であり、そのためにはどのようなことが出来るかを考えました。具体的には病院会・病院医療の見える化、人材の確保と育成、それに地域医療の再生の三つを重

点課題として活動してきました。見える化についてはまず病院会そのものが何を

行っているか分つていただくことと、医療政策決定過程に現場の意見が反映されにくいことから、現場の状況を見える化して政策提言しようということです。人材育成に関しては、病院に必要なのは診療の質と経営の質の担保という観点から、これらの人材育成を図るということと、地域医療の再生は勿論誰もが望んでいることですが、医療は地域産業という立場で中央からのトップダウンではなく現場からのボトムアップを図ろうと考えました。

勿論、1年で全ての目標を達成できるとは考えていませんでした。60年という歴史があり、先達が築いた良いところは継承し、その上で緩やかな変革を遂げた

かと思つています。これまでの日本の医療界は、対立構図の中でバランスをとろうとしてきた感じがあります。病院対診療所、大学病院対一般病院、公的病院対私的病院、大規模病院対中小病院、急性期病院対慢性期病院、挙げればきりがありません。一般国民から見れば何のことか分からない構図です。これからはこの様

な対立を打破しながら、病院全体あるいは医療界全体としての活動を展開できたいと思います。あのほな同窓会の皆さまの更なるご支援をお願いいたします。

受章の挨拶

旭日双光章

叙勲と追憶



昨春秋、図らずも叙勲の栄を受けることになりました。旭日双光章、という内容です。

11月4日、千葉県庁で森田知事より賞状及び勲章をいただき参りました(皇居へは、諸般の事情のため伺えません)。青年知事の情熱と思ひやりのあるスピーチに感動して帰旭しました。

(A)受賞に関連する事項

(1)主要経歴

元旭市海上郡医師会会長

(2)実績概要
①昭和42年7月、高木病院を開設し以来43年余にわたり、地域医療の発展充実のため診療に従事し、住民の健康管理及び健康増進に努めている。また昭和45年から旭市海上郡医師会理事

ばと考えています。あのほな同窓会の皆さまの更なるご支援をお願いいたします。

高木良章(昭34)

を通算22年。②平成6年から、同会会長を6年努め、公衆衛生、学校保健、社会福祉及び介護支援の確保に取り組み、また、予防接種の充実にも貢献している。③さらに永年、学校医(中央小、県立高校)、嘱託医(市保育所)を務め、医学上の見地から正しい保健指導の在り方を保護者及び教育関係者に説き、学校保健及び幼児保健の健全発展に多くの貢献をしている。

(B)私個人の略歴

(旧)県立匠瑤中二年生のとき終戦となり、やがて新制高校となり、いつも学制改革の余波を受け、やがて千葉大学医学部も文理学部(プレメディカル)+専門課程(4年)となり、文理は正に「分離」であり二十数倍の競争を抜けるのに苦労して、約150名の同級生の中、単位を取って(千大医学部)専門課程へ進んだのは、50名位であった。昭和30年の頃の解剖学

のミクロで、当たり前の「ビデオ」を貰つて眼鏡を調整する程、ミクロに放課後長時間を要したことは忘れられない。卒業試験時のT教授の病理は何とか通過、二外科の著名なN教授には口頭試問で冷や汗をかき、精神神経科ではヤマが当たって並んだ7、8名の同級生に握手された記憶がある。卒試は何とか通過、1年後の国家試験では(口頭試問でやや苦戦したが)同級生全員が合格、私は何となく二内科へ入局した。旭の自宅の周辺は農村地帯であり、いつも脳卒中や心筋梗塞で倒れる方が多く、循環器疾患で著名なS瑞宝中綬章

教授の医局を目指したのである。二内科大学院の定員(正規)は二名なので、第二病理(O教授)で、臨床に通用する実験病理(間質性肺炎が主題)で学位を取得した。昭和40年に結婚、昭和42年に内科医局を開業。その後の経過は前述の(A)の②③の文面が概略である。前後するが大学院後半頃の研修は、近在の医院(夜の当直)、成田日赤病院、三重四日市市の社会保険病院、銚子市立病院内科が主体であり、当時医局員が3名勤務していた市立病院での2年半の開業前の修業が旭でもかなり役立ったものである。

このたび(平成22年秋)の叙勲にて瑞宝中綬章を頂いた。これは永年教育、研究に従事した功による由で大変光栄に存じている。昭和28年千葉医科大学を卒業し、無給の6年(インターン1年、研究生1年、大学院4年)のち昭和34年文部教官医学部講師眼科に就任、その後千葉大に20年、昭和54年新設の富山医科薬科大学医学部教授に昇任、平成6年定年迄15年、併せて35年の教官生活であった。



回顧 瑞宝中綬章受賞に際して

窪田 靖夫(昭28)

千葉大学に勤務中、一番心に残るのは、学園紛争であった。昭和40年紅衛兵を中心とした中国の文明改革騒動(文革)の余波が東大を中心とした学園紛争は全

国の大学に広がり、とくに医学部ではインターン制反対、報告医制反対、学位制度反対のストライキや学位記焼却などが行なわれた。遂には病院の玄関前に団結小屋と称するものが立てられた。晩秋の払暁、井出源四郎医学部長（故人、のちに千葉大学長）指揮のもと一気に撤去、平穩に戻ったのであった。

その後、インターン制度は廃止され、医員、研修医制度が発足、最近卒後臨床研修制度が施行、当時の学生への要求は一応解決した様に見える。

昭和50年富山医科薬科大学の創設に当り昭和53年4月整形外科学辻陽雄助教（昭33）が、昭和54年4月には泌尿器科片山喬助教（昭30）それに小生（28年眼科学）の2名が同大学医学部教授に昇任し赴任した。同年寺澤捷年氏（昭45）は和漢診療部講師として赴任、同氏の卓越した診療研究は高く評価され、和漢診療医学講座が承認され、寺澤氏は教授に昇任した。のちに同氏は千葉大に転任。最近退官された。

以上の講座の発足に当り、中核となる助教、講師をはじめ多数のスタッフが千葉大より赴任、出発の

大きな力となった。富山市の西部、呉羽山の山頂近く、白亜の大学病院は最近

日本医師会

最高優功賞を受賞して

秋山龍男（昭28）



昨年十一月、第63回日本医師会設立記念医学大会で、性感染予防活動に対し標記の賞をいただきました。千葉県医師会の御推薦、また多くの先生方の御高配に厚くお礼を申し上げます。

実は私、日医の事情に疎く、八月に内示を頂戴した時にこの賞の重さを知ってびっくりしました。文字通り身に余る光栄で、図々しいことになってしまったと云うのが実感です。

千葉医科大学入学は大東亜戦争に敗れた余韻覚めやらぬ頃、大正時代に駆逐艦一隻の予算で造ったと云う大学病院と、連絡道路越えのバラック建ての基礎医学教室で、俊秀揃いの明るいクラスメートと過した楽しい

病棟が新築され、富山県の医療、研究の中心として発展を続けている。

四年間は今でも鮮明に覚えていて。ただ、私とは言えませんが学生新聞、バドミントンなどに熱中、勉強したと云う記憶が殆んどないのです。成績は間違いなくビリグループだったので、今回のことでは一番びっくりされたのは28卒の諸兄だったのではと思ったりして居ります。

卒業後は薬理（小林龍男教授）、産婦人科（御園生雄三教授）で多くの先生方に御指導いただき、昭和38年から父の医院を継承しました。49年に市川市医師会理事に引張り出され、57年より副会長、ややオーバークラフで60年に胃潰瘍で吐血してひっくり返り、奥井勝二君（一外）、水口公信君（麻醉）両教授に手術して助けて貰いました。執行部退任。現在まで議長。併行して市川市長さんの後援会長、これは人生勉強にもなり、STIPRの機会が増えました。

受賞の対象になったSTI予防については日本人第一号エイズ患者が明らかになった平成三年以降のパニックがきっかけで、六年に千葉県医師会から高木賞を拝受、この時もびっくりして以後一連の流れで、HIVと関連の問題点、STI一般、若い世代の性、同性指向、無症候性STI、三年前からHPVワクチンと云うように、素人のコワさ知らずで振り返れば二十年近くになりました。

但し、学術的には低レベルの、ローカルな草の根の仕事で、一般の市民の皆様にお話するには、私のような先端医学に遅れた医師の方が、市民と同じ目線で疑問点が判り易いのではと始めた次第です。小人数の集会での対話は楽しいし、私自身トシをとってからの勉強は面白いと痛感、開業医冥利につきる事も味わいました。長くはない余生と思いますが「男は生涯未完成」をモットーに、出来る範囲で努力して参りたいと存じて居ります。

るのな同窓の皆様にご覧しました御指導、御厚誼に改めて心から御礼申し上げます、ご挨拶に代えさせていただきます。

第87回千葉医学会学術大会

日時：平成23年9月8日(木) 16:10~18:30
場所：千葉大学医学部附属病院 3階 第一講堂

特別講演 眼科学に寄す

演者：安達 恵美子 先生（千葉大学 名誉教授）
座長：藤森 宗徳 先生（千葉県医師会 会長）



安達恵美子先生

招待講演 Last Frontier に向かって

演者：山本 修一 先生（千葉大学大学院医学研究院 眼科学 教授）
座長：千葉 彌幸 先生（永吉の眼科 院長/
千葉大学医学部眼科学教室同窓会 会長）



山本修一先生

参加手続き及び費用は不要

ご来場の際は公共の交通機関をご利用下さい。
多くのご来場をお待ち申し上げております。

問合せ：千葉医学会（〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学医学部内）
TEL：043-202-3755 FAX：043-202-3757
e-mail：info@c-med.org URL：http://www.c-med.org

最終講義

放射線治療に従事して

千葉大学大学院 医学研究院放射線医学

伊東久夫(昭45)



はじめに

1996年に千葉大学の教授に選任していただき、約15年間の任期を終了して、最終講義を迎えることになりました。最終講義にはどのようなお話をしていただくのが適切か迷いました。千葉大学に赴任する前から数えて約35年の教員生活で、心に残ったことをお話しさせていただきます。学生諸君や若い先生方が将来を考える上で、多少とも参考になれば幸いです。

放射線治療による

がんの根治

放射線治療はレントゲン博士がX線を発見した翌年(1896年)に始まり、1920年代にはラジウムによる腔内照

射で子宮頸癌の根治が報告された。しかし、その作用機序は不明であった。

1960年代に継代培養細胞を用いた実験が容易に行えるようになり、放射線が細胞を直接殺すことが確認された。さらに、照射線量と細胞生存率の間には、対数により直線となる比例関係が認められ、放射線は細胞を一定の割合で殺すことがわかった。この作用ががん治療にあてはめると以下のように解釈できる(表1)。「10⁸個のがん細胞からなる腫瘍」があり、この腫瘍に5Gy照射すると、

線量:	細胞数		0個(治愈)の確率
	照射前	照射後	
5 Gy:	10 ⁸	10 ⁷	
5 Gy:	10 ⁷	10 ⁶	
5 Gy:	10 ⁶	10 ⁵	
5 Gy:	10	1	0
5 Gy:	1	0.1	0.9
5 Gy:	0.1	0.01	0.99
5 Gy:	0.01	0.001	0.999

表1. 1回の照射で残存する細胞数と治愈の確率

多くの線量を照射する方法として「多(過)分割」を考案した。一方、線量分布の改善から治療効果の向上を目指す研究者は、「腫瘍に線量を集中する照射」を開発した。

M.D. Anderson 病院 <の留学

私は1970年に大学を卒業して7年半産婦人科に在籍した。8年目の中途で子宮がん放射線治療を行うため婦人科から放射線科へ派遣された。放射線科で3年を経過したとき、大学から奨学金を貰えることになり、1981年M.D. Andersonがんセンターに留学した。アンダーソン病院では放射線治療部の Luka Milas 先生の指導を受け、照射された間質が腫瘍の発育や治療効果に及ぼす影響、すなわち、「tumor bed effect (TBE)」に関する研究に従事した。

照射された間質は血流が低下し、移植腫瘍の発現と発育が遅延することはすでに知られていた。ただ、線維肉腫(FSA)と乳がん(MCa)を比較すると、線維肉腫は発現が12日から17日と数日のみの遅延であったが、乳がんは16日が54日と著しく遅延した(Cancer Res 46:723-727, 1986)。Milas 先生はこの現象の説明に、「発育の早い腫瘍(FSA)は、腫瘍が血管を増生させる物質」を分泌する、との仮説をたてた。現在のVEGF

様物質であるが、VEGFが報告されたのは約8年後(1989年)である。仮説を証明するため、致死線量を照射して、細胞が「短期間生存した後死滅する」状態にした線維肉腫細胞(FSA)と乳がん細胞を混和して、前照射した下肢に移植する実験を立案した。その結果、乳がんの発現までの期間が54日から26.5日に短縮され、先生の仮説は見事に証明された。繰り返すが、まだgrowth factorという概念が無かった時代である。私達は何らかのgrowth factorを測定出来る実験系を作り出したことになった。しかし、先生は刺激物質の抽出には興味を示さず、私も帰国の時期になったため、この実験はそのまま終了した。後から考えると、何か新しいことが発見される時代には、「複数の研究者が類似の発想」を持っていくのだと思った。また、Milas 先生の発想に感心すると共に、「大発見のチャンスは意外に身近にあるのかもしれない」と思う。

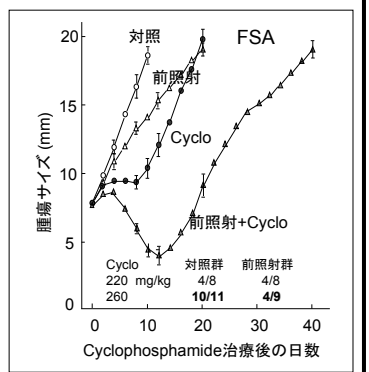


図1. Cyclophosphamide 治療後のFSA腫瘍増殖曲線

め、前照射部位に移植した腫瘍を抗がん剤や放射線治療する実験を行った(Int J Radiat Oncol Biol Phys 11:547-553)。その結果、前照射した間質で育った腫瘍は、ほとんど消失するまでに縮小した後、ゆっくりと再増殖した(図1)。前照射群には治療(cyclophosphamide)が極めて有効で、予想と全く異なる結果となった。前照射した間質で増殖した腫瘍には、放射線(30Gy)でも治療と同様に著明な腫瘍の縮小が確認された。いずれも予想と全く異なる結果で大発見のように思われた。しかし、治療に用いる薬剤量や線量を増加して長期間観察すると、非照射対照部位の腫瘍は、cyclo(260mg/kg)で11匹中10匹が根治したが、照射部位の腫瘍は9匹中4匹しか治愈しなかった。照射の場合も同様で、対照群は42Gy

で全て根治したが、前照射群は1/3しか根治しなかった。すなわち、照射部位で発育した腫瘍は治療や放射線治療すると、腫瘍は著明に縮小したが、最終的には再増殖して根治しない、という結果になった。Milas 先生はこの説明に、「腫瘍の増殖曲線の傾きの違いから、現在ドピックスの「腫瘍のstem cell」の概念を30年前に提唱した。また、「化学放射線療法は腫瘍を著明に縮小させるが再増殖が多い」とされる現象を30年前に予測していた。照射野に発育する腫瘍は、腫瘍の縮小により治療効果を判定出来ない、ということになる。

実験・臨床いづれの場合でも、予測しない結果となった場合、従来と異なる発想をすることの重要性、新しい発想をできるか否か、が未来につながる最も重要な道であることをつくづく実感した。私は出来なかつたが、若い先生方は是非、「他のヒトと違うことを発想」してもらいたいと思う。

各地のほな会 だより

群馬のほな会

平成22年10月16日(土)、群馬のほな会総会が高崎ワシントンホテルで開催されました。総会は黒岩璋光先生の司会ですすめられました。まず、平成22年7月に逝去された宮下隆二(昭20)先生のご冥福を祈り黙祷をささげました。次いで、鹿山徳男会長の挨拶があり、群馬県から千葉大学に入学する者が殆んどなく、関連大病院もない為新たな会員の入会なく、会員は減少する一方で将来的に会の存続が危ぶまれると話された。また、8年間会長を務めて来たが今年八十歳になったのを機に退任したとの意向を表明し、後任に鈴木守先生が推薦され満場一致で承認された。鈴木守新会長の挨拶があり、「平日頃会員の減少には危機感をいだいていた、今後会員を増やす工夫をしてみたい。」と話された。次に中田益允先生から会計報告があり承認された。

長をお招きして「前立腺癌の予防医学」と題して講演をしていただきました。癌の予防には食材がいかに大切であるかというお話でした。次に「のほな同窓会の将来展望」と題して新同窓会館設立計画の進捗状況など多数のスライドを使いながら講演していただきました。

集合写真撮影の後、別室に席をうつし、平形義人先生の乾杯のご発声で懇親会が始まりました。しばし歓談の後、自己紹介、近況報告をし、平形先生の能の舞なども披露されて宴も大変盛り上がりしました、長谷川透先生の締めでお開きになりました。

翌日曜日には親善ゴルフ大会を下仁田カントリークラブで開催いたしました。出席者右から
前列・根本幸一(昭29)、平形義人(昭19)、伊藤晴夫同窓会長、鹿山徳男(昭29)、鈴木守(昭39)、長谷川透(昭29)
後列・西村忠雄(昭32)、船曳甫(昭25)、保阪亜莉沙(昭48)、小林道生(昭48)、小林けい子(昭50)、黒岩璋光(昭37)、本島悌司(昭45)、中田益允(昭35)
写真以外に鈴木弓(昭41)が出席しました。
(西村忠雄)

今年も伊藤晴夫同窓会



習志野のほな会

大寒のすぐ前の1月18日(火)に習志野第一病院(三橋稔院長)会議室で習志野のほな会を開催しました。のほな会会長伊藤晴夫先生による大学の近況とのほな会の現況を踏まえたご挨拶に続き、白澤浩教授による『千葉大学の近況と学生達の今昔』の演題でご講演をいただきました。のほなキャンパス内の整備事業が進んでいる状況に一同眼を見張り、また平成13年から大学院大学化と法人化



の波、入試と入学後のカリキュラム改革にともなう勉学の厳しさに皆一様にはるか昔の学生でよかったと胸をなでおろしていました。
引き続き、同病院の職員福祉館ボニョで懇親会を行いました。栗原伸夫(昭38)習志野のほな会会長は習志野市医師会で20年ぶりに母校出身の堀部和夫(昭52)が医師会長に就任したこと、科学技術館での遺伝子操作手技を見て、科学の発展が果たして人類の幸せを呼ぶのか疑問を投げかけた。砂田莊一(昭55)は新キャンパスがサッカーグラウンドの上のできるのほなさびしい限りだが、100年先ならあの世にいますのでどうでも良い。中村伸一郎(昭63)は学生時代野球部だったが、グラウンドはキャンパスのほずれにあるとの感覚だった。グループでみると中心に位置しているのに驚きを新たにするとともに、何が何でもグラウンドは残して欲しい。原田義忠(昭57)は学生時代、今日の講演をした白澤教授の同級だが、私のほうが授業の出席率は上だったと思いで出でて発言。細井湧一(昭44)は学生時代、授業はほとんど欠席してひたすら山中寮で人生勉強を積んだ、今の学

第12回 50 (昭和50年卒) 研究会

日時：2011年7月9日(土) 17:00～18:15

場所：京成ホテルミラマール
4階 ローブルーム
千葉市中央区本千葉15-1
TEL 043-222-2111

話題提供

- 川崎病診療の現状と課題
日本赤十字社医療センター
第一小児科 部長 麻生 誠二郎 先生
- 江戸時代のヨーロッパ医学
あきば伝統医学クリニック
院長 秋葉 哲生 先生

会費：1000円

終了後意見交換会があります

夜が更けるのも忘れて語り合い再会を誓ったのち、三橋稔の一本締めで再会を約束して帰路についた。

生にとっても必要なことだと述べ、堀部和夫(昭52)も授業は全く出ていないのに野球部顧問松本胖教授から目をかけられたことを懐かしく述べた。三橋稔(昭35)はヨットに明け暮れた毎日が懐かしい、最近行ったベネズエラ旅行では同行者の心肺蘇生をやることになり、自分自身にもお迎えが近いかとユーモラスに語った。齊藤裕康(昭39)は開業当時適正配置委員会があり、千葉大学出身というだけで白い目で見られ、肩身が狭い思いをした。集まりは八千代の山奥か船橋の浜辺でひっそりとしかでさなかつたと懐かしく話された。

出席者右から
前列：一瀬正治(昭43)、大木健資(昭40)、栗原伸夫(昭38)、白澤浩教授、伊藤晴夫会長、堀部和夫(昭52)、三橋稔(昭35)、増田善昭(昭35)
中列：隆元英(昭50)、鈴木晴彦(昭48)、砂田莊一(昭55)、野本泰正(昭38)、山本和夫(昭51)、齊藤裕康(昭39)、村山憲太(昭38)、神崎頼仁(昭46)、小林智(昭58)、豊崎哲也(昭58)、鎌田尊人(信大平9)、萩原雅司(昭61)
後列：佐藤英樹(昭43)、細井湧一(昭44)、鳥飼英久(昭63)、原田義忠(昭57)、木下知明(平2)、中村伸一郎(昭63)、久保田博昭(平4)
(堀部和夫)

クラス会

もぐら会 (昭23)

今年はずの外の暑い夏でしたがその暑さがまだ裾を引いている秋例年の通り9



月23日、日本工業倶楽部で開催の運びとなりました。出席者は大久保、柴田、多賀谷、竹内、奈良、前田、宮崎、上野の他にニューヨーク在住の廣瀬夫妻が参加され、国際的な話題も豊富に楽しいひとときを過ごすことができました。尚、今回は大久保、前

田、竹内君が幹事で、平成23年9月17日(土)に同じ日本工業倶楽部で開催予定です。

二七会 (昭27)

出席者右から
前列：奈良四郎、上野高次、廣瀬輝夫、宮崎隆次、柴田鐵郎、大久保欽司
後列：多賀谷讓、前田裕廣瀬夫人、竹内博通
(幹事 柴田鐵郎 上野高次)

二七会は年に二回集まる。春は東京で会食し、秋は各地の回り持ちで一泊旅行をする。この仲の良さは、世話役の小沢君達の下町風で気取らない面倒見に因るところがおおきい。

平成二十二年秋の旅は千葉県が受け持つことになり、渡辺(武)が幹事に決まった。元千葉県医師会長、元千葉県のほな会長にそういう瑣事を頼んでいいのか、ということから同じ旧制東京高校出身の渡辺(勲)と武宮が手伝った。紅葉の見頃、11月28日(日)の養老溪谷と大多喜が選ばれたのである。ここは人によつては地元穴場、またある人にとっては懐かしい



場所でもあろう。

10時に五井駅前に集まって健在を喜び合ったのち、貸切りの観光バスで大多喜城に向かう。一帯が整然とした観光地に変貌していたことに驚く。女性ガイドも良かった。その話しぶりの明晰さ、折り目正しくなだらかで自然な抑揚は、かつてのZENEZの名女性アナウンサー達に劣らないほどだ。ジイサマ達は安心して彼女の説明に聴き入るのだった。

写真右から

前列：橋爪壮、小沢昭司、渡辺武、鍋谷夫人、鍋谷欣市
後列：桜井稔、渡辺勲、服部了司、有馬忠正、武宮三三
養老溪谷の滝見苑で大浴場と「しし鍋」を楽しむ。紅葉の真っ盛りだから見物客で混みあい、坂の昇り降りもいささか億劫だから、肝腎の「栗又の滝」はバスの窓に額を押しつけて見下ろすだけになった。
(次面につづく)

二七会のつづき
 夕方五井駅に戻り、半年後の再会を約して解散。上りの内房線は遊び足りた顔の人達で混みあっていた。そこにまじって夫々帰途に着いた。
 (武宮三三)

六葉会
 (昭22)

平成22年度の六葉会同窓会も恒例に従い10月31日(日曜日)正午から銀座アスターお茶の水賓館で開催しました。本年度は14名の方から出席の返事をいただきましたが、前日の台風の影響で交通事情が悪くなり出席者は11名になってしまいました。更に昨年まで幹事長として苦勞してこられた赤畑正光君がロコモティブシンドロームのため歩行困難をきたして欠席されてしまい、大変さびしくなっていました。しかし次回には是非出席される予定で治療に専念されているとのことでしたので期待をしております。
 本年度の会は神山君の進行で開会し、この1年間に逝去された大谷彰君、斉藤郁郎君、市村公正君、米川潔君の御冥福を祈って黙祷を捧げてから久しぶりに彦根市より参会された奥野文

雄君による開会の挨拶ならびに乾杯の音頭で杯を捧げてから歓談に入りました。例年どおり出席者全員から近況報告、思い出ばなし、将来の夢などを中心にする

ピーチをいただきましたところ、出席者の半数以上は現在でも医業に従事しており、とくに3名は毎日医療の現場に立って活躍していることが判り驚きました。



医療に従事していない人は焼物などの趣味に熱中するもの、国内に限らず国外旅行まで楽しむものなど、それぞれに自分の人生を有効に使っているのが判り大変参考になる話ばかりでした。全員のスピーチのため終るところを知らず予定時間をはるかにオーバーしてしまい、3時すぎに来年の再会を約して散会することといたしました。

出席者右から

前列…太田廣三郎、郡司宗文、石井克巳、村磯旺嗣、後列…徳政義和、木村強、鈴木隆、神山一郎、奥野文雄、中村彰、福山正臣
 (徳政義和)

45クラス会
 (昭45)

平成22年10月23日 猛暑がやっと一段落した中、45卒のクラス会が東京ホテルオークラで開催されました。参加者は22名でした。遠くは静岡県藤岡市から菅ヶ谷純弘君が今回も参加。乾杯の後、各人の近況報告を聞きながらの楽しいひと時でした。数年前に還暦を過ぎ第二、第三の人生を踏み出した者も多い中、堺常雄君は日本病院会会長を勤めておりその活躍ぶりはマス

コミなどでも紹介されています。膝関節の治療法の改善に心を配り、クラス会の途中で大学病院の研究会へ向かった永岡喜久夫君、モングルでの病理の指導から帰国してその足でクラス会



への参加となった中野雅行君など第一線で活躍している様子が次々と語られました。次回また元気で会うことを約束し、名残惜しいお開きとなりました。

写真右から

前列…菅ヶ谷純弘、渡辺義二、細山(入江)公子、榎本(松本)純子、野田宏子、林泰、野口健太郎、新井裕二、中列…上野克彦、古川隆男、新倉春男、中山章、堺常雄、高橋長裕、榎本正満、後列…中野雅行、橋本英明、向井将、済陽高穂、ジヨセフ・アントニー、湯原幹男

(永岡喜久夫君は途中で別の研究会へ参加した為、写っていません)
 (榎本純子)

開催予定の行事をお知らせ下さい

学会、研究会、おのはな会、クラス会など種々の行事開催予定とその内容について同窓会事務局へお知らせ下さい。本会報に掲載致します。なお、本会報の発行月は1月、5月および9月です。

お詫びと訂正

前号(156号)12頁37クラス会報告 文中 仁、義、礼、孝、怒 ↓ 仁、義、礼、孝、恕 お詫びして訂正させていただきます。

追悼文

富田裕先生を悼む

三橋 稔(昭35)



富田裕先生は世界中を駆けめぐり社会事情に通暁し、あらゆる事態に大局的な見識を持たれておられました。

富田裕先生が急逝されました(平成22年11月16日没・享年79歳)。金婚式の記念品を求めに容子夫人と腕を組んで銀座を歩かれていたとき突然、歩道で座り込み倒れ、たまたま通行中のドクターから直ちに蘇生術を受け救急車で聖路加病院に運ばれましたが、CPAOAの不帰の人となられました。大動脈解離に襲われたのです。

前兆はなく前日もスポーツクラブで体を鍛えられたくらいなので、ご家族はもとより整形外科教室同門にとつてまさに青天の霹靂で果然としました。富田先生は数年まえ夫と東南アジア旅行中にフラックとして検査の結果、硬膜下血腫がみつかり手術を受け、その後は元気になら

は、名だたる大型名車からルノーや中古スバル360まで乗っており、整形外科教室の前庭に並んでいました。ある時富田先生を先頭に白根の温泉に十数台でドライブ旅行をした時は速度違反や一時停止違反が何台もでて、宿に到着したときはがっかり、無事千葉に帰ってからは黙って出掛けたことで教授から叱られ、皆しよんぼりしたことがありました。また熱海の学会場まで競争し、一般道での目的地到着は排気量に無関係であると証明したなど、若い頃のおおらかな楽しい医局の雰囲気を出しておられました。

昭和34年文部教官助手に就任し、昭和39年講師になられ、昭和41年社会福祉法人千葉県社会福祉事業団千葉県袖ヶ浦福祉センター療育園園長も兼務されました。昭和43年1月に横浜市金沢区に金沢病院を創設開院され、その後医療法人社団景翠会に改組し、金沢病院グループの総帥としていち早く医療、介護、健診の一体化を主張し、地域に貢献されてきました。すでに昭和58年に健診事業部を発足させ、平成6年には訪問看護ステーション「さわやか金沢」を初めて

し、その後多くの在宅事業部を立ち上げました。また平成10年に介護老人保健施設「こもれび」、平成16年に「ふるさと」を立ち上げ開所しました。この組織力と実行力はまさに瞠目するものであります。今日我々が直面している高齢化社会におけるQOLを維持する人生の諸問題や、無縁社会問題を先見の明のもと、事業としてこれほど早期に対処し立ち上げられたことは驚異に値します。そして平成15年から千葉大学整形外科同門会長はじめ、あのはな同窓会関係や神奈川県における医療関係の多くの会の役員をし、活躍されました。見事に新しい時代を見通して巨大な金沢病院グループを立ち上げられ、そして、人生をロマンチックに過ごされた富田先生を敬服するとともに、いつまでも忘れられませんが、



合掌

千葉医学雑誌87巻 1号目次

Table with 2 columns: Article Title and Author. Includes sections like '総説' (Editorial), '症例' (Case Reports), '話題' (Topics), '研究室だより' (Research Room News), '学会' (Society), and '編集後記' (Afterword).

千葉医学雑誌87巻 2号目次

Table with 2 columns: Article Title and Author. Includes sections like '総説' (Editorial), '原著' (Original Papers), '症例' (Case Reports), '海外だより' (Overseas News), '学会' (Society), and '編集後記' (Afterword).

研修プログラム

呼吸器内科の研修・診療

～全身性疾患としてとらえる～

千葉大学大学院医学研究院呼吸器内科学

教授 巽 浩一郎 (昭54)

高齢化社会を迎えつつある日本において、呼吸器疾患を適切に診ることがより求められている。高齢者人口が多くなると、必然的に呼吸器の病気になる方は多くなる。高齢者のみでなく、呼吸器疾患は小児期から問題になり、生産年齢人口でも多彩な病気の患者が医療機関を訪れる。

内科医は基盤として広い知識と臨床経験が必要である。すべての患者を自分で診るのは不可能であるが、自分が診れる領域は適切な診療を行う、自分が診れない領域は他の適切な専門医に紹介できる技量が求められる。そうでなければ、社会の要請に応えることができない。ベースになるのは内科の知識があること。さらにその上で、呼吸器の専門医としての知識が必要になる。

内科のほとんどすべての領域と関係しているのが呼吸器疾患である。急性・慢

性に限らず、感染症、炎症性疾患（アレルギー性炎症、免疫疾患を含む）、腫瘍性疾患、肺血管の障害（肺高血圧症を含む）、循環器疾患、内分泌・代謝疾患、中枢神経系疾患（睡眠時無呼吸症候群を含む）、消化器疾患、腎疾患、血液疾患と非常に広範な領域と

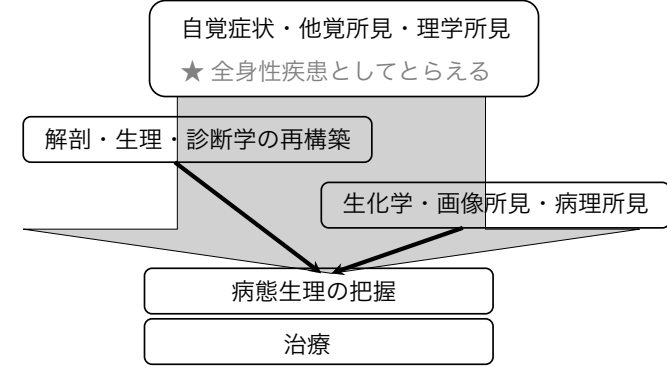


図1. 呼吸器病のとらえ方

高齢化社会と泌尿器科

千葉大学大学院医学研究院泌尿器科

教授 市川 智彦 (昭59)

人類史上例のない勢いで高齢化の進む日本。政治・経済など多くの分野で閉塞感の漂う中、V字回復に向かう処方箋はあるのでしょうか？ 医療に関連するものでも、地域や診療科における医師の偏在、勤務医の過重労働、リスクを指す安全管理など枚挙にいとまがない状態です。現役世代の医師としてどのように行動したらよいか？ 一般論として、立場の違いにかかわらず、それぞれ自分が果たすべき役割を主体的に考え、それを義務ととらえることなく権利と考へ前向きに行動することでしょう。

さて、泌尿器科としてはどのように社会に貢献できるでしょうか？ 泌尿器科医が診療する疾患として、前立腺癌・膀胱癌・腎癌などの悪性新生物、感染性疾患、尿路結石症、排尿障害、先天疾患、副腎・内分泌、男性不妊症・アンドロロジなどに至るまで多岐にわたっています。高齢化と関連の深い疾患を持つ患者さんが多く、泌尿器科医が適切な診療を行うことに

より、高齢者の quality of life (QOL) に大きく貢献することが可能です。近年、毎年のように千葉大学関係者が泌尿器科を標榜して開業しています。筆者が泌尿器科にいわゆる入局した頃には、「あと数年もすれば開業に適した地域はなくなるよ」と先輩が言っていました。しかし、依然として泌尿器科の需要は多く、基幹病院と連携を保ちながら地域医療に貢献しています。前立腺肥大症であったり、頻尿や尿失禁などの排尿に問題を抱えている高齢者は、高血圧などで通院している診療所から既に処方を受けていたりします。泌尿器科専門医が診療に関わることができれば、より専門的な治療を提供することによって、高齢者の QOL の改善や維持に大きく貢献することが期待できます。

谷幸男教授は千葉大学泌尿器科出身者であり、いづれも若手泌尿器科医師の研修病院としてすぐれた実績を示しています。千葉大学泌尿器科の関連病院は、全国的に見ても拠点化が進んでおり、旭中央病院、千葉県立がんセンターでは8名以上の泌尿器科医が勤務しています。4名以上の泌尿器科常勤医が勤務する関連施設が県内外を合わせて13病院あり、いずれの病院も特色のある診療を行っている。若手医師がこれらの病院をローテーションすることにより、バランスのとれた泌尿器科専門医、指導医になるばかりでなく、全体の診療レベルの向上が図られています。

一方、医学の発展における physician scientist や surgeon-scientist の重要性とともにこれらの減少が指摘されています。Physician scientist でありまた surgeon-scientist でもある urologist-scientist も専門医研修の中で endangered species として世界共通の問題になっていきます。我が国の泌尿器科領域の研究は、泌尿器科医自らが行っている場合が多く、science にも興味を持つ泌尿器科医の育成や活躍が求められています。臨床を通じて生じた疑問に対する解決策を基礎医学の門を開くことによって探索し、それをまた診療に生かす。前立腺癌のように診断から始まり、内科的治療、外科的治療、緩和治療に至るまで、患者さんと向きあう泌尿器科医は研究の成果を臨床に還元しやすい機会に恵まれていると思います。

それでは、今、大学病院またその中で泌尿器科を担当する教授として何をすべきか？ 医学生への教育や若手医師の指導を基本に、次世代を牽引する physician scientist や surgeon-scientist を育成することであるうと思います。それには、千葉大学ならびに関連病院、海外の関連施設とも密に協力しながら、若手が可能性を求めて大きく芽を伸ばすための環境を整えることが必要でしょう。若手には是非自分の能力を信じて、たった一度の人生をチャレンジする希望を持ってもらいたいと思います。一人でも多くの人間力を備えた医師を育成することが、ひいては冒頭で述べた我が国の状況を打開することにもつながっていくと信じています。

分化制御学教室紹介

千葉大学大学院医学研究分化制御学

教授 徳久剛史(昭48)

分化制御学は、昭和63年に新設された医学部附属高次機能制御研究センターの一部門として設立された基礎系教室であり、主に研究と教育を行っている。平成13年に医学部が大学院に部局化された時に現在の所屬となった。研究は、胚工学技術を応用した免疫学研究を行っている。特に「免疫記憶の分化と維持」に関して、分子レベルでの研究を行っている。ジェンナーが種痘法を発見してから200年以上が経過し、さまざまな感染症に対するワクチンが開発されてきた。しかし、ワクチンの原動力である免疫記憶リンパ球の形成と維持に関しては、最近になってやっとその一部が明らかにされてきたところである。分化制御学教室では、免疫記憶に関する遺伝子の改変マウスを作製することにより、免疫記憶リンパ球の分化と維持の機構を遺伝子のレベルで明らかにしようとしている。このような研究の成果は、これまでワクチン開発が不可能であったウイルス感染症に

経験している。その経験の中から病気の本质を知りたいと思ひ基礎医学研究の道に入っている。分化制御学教室で学ぶ大学院生の多くも臨床を経験してきており、修了後には海外留学からそのまま海外の大学のスタッフになったり、帰国後に医学部の教員として研究活動を続けている者も多い。このように私は、臨床医が治療への強いモチベーションをもって基礎医学の

道を選択し、研究や教育を担って活躍することを願っている。そして医学研究院が、基礎と臨床の人的相互交流を積極的にサポートし、若手臨床研究者が基礎医学分野においても自由に活躍できる環境を保ち続けて欲しいと思っている。また、このような若手臨床研究者に対する、ゐのほな同窓会の先輩諸兄の暖かい励ましやご援助を期待して止まない。

千葉県子ども病院

病院長・千葉大学医学部臨床教授 伊達裕昭(昭50)

千葉県子ども病院は昭和63年に開設した小児の総合医療施設で、一般の医療機関では対応が困難な子どもの病気に対して専門診療科の立場から診断と治療および指導を行っています。運営の基本理念として、「児童の権利に関する条約」に則り、子どもの基本的人権を擁護しつつ最高水準の医療を提供することを掲げて、子どもの育つ権利・守られる権利・意思表明する権利を尊重し、患者である子どもの最大の利益を優先する病院を目指しています。

内科系12科、外科系11科



平均在院日数124日、全麻手術1,888件、救急患者受け入れ2,966名と、名実ともに県内小児医療の中心施設として活動しています。

千葉県は15歳未満の小児人口10万人当たりの小児科医数が71.0(全国平均88.7)で、全国45番目の小児科医不足県です。小児医療従事者を育成し増加させることは県全体の大きな課題であり、適切な研修の場を提供することも当院の大きな役目になります。具体的には千葉大学医学部附属病院と連携して初期臨床研修の小児科研修プログラムを担当する一方で、県立の7病院で作る千葉県病院群の初期臨床研修期間における小児科研修、および3年間の小

児科後期研修医(レジデント)の育成プログラムを担当しています。当院の研修では、小児科の専門分化した診療のみならず、多くの小児の外科系診療科を持つ総合医療施設としての立場を生かし、幅広い総合的な小児の臨床経験を積むことが可能です。

当院には小児科ばかりでなく千葉大学の卒業生が数多く勤務しています。主な役職者としては青墳裕之(昭55、循環器科)、星岡明(昭58、アレルギー科)が診療部長として病院全体の管理運営に努め、その他にも佐藤真理(昭47、精神科)、沖本由理(昭50、血液腫瘍科)、岩井潤(昭53、小児外科)、宇田川晃一(昭53、形成外科)、伊藤千秋

(昭55、脳神経外科)、長雄一(昭55、泌尿器科)、青木満(昭58、心臓血管外科)、中島弘道(昭58、循環器科)がそれぞれの診療科の部長として、日々の診療に留まらず後進の指導、学会活動に幅広く活躍しています。

未来ある子ども達の健康のために力を貸すことは、間接的に未来の国づくりに係わることでもあります。これからも千葉大学との連携を密にして、安心して子育てができるよう千葉県の小児医療を支えていきたいと考えています。

(千葉県子ども病院 ホームページ <http://www.kodomo.unin.jp/>)

社会医療法人社団さつき会

袖ヶ浦さつき口病院

院長・千葉大学医学部臨床教授 菊池周一(平元)

当院は精神科先々代教授佐藤壹三元教授と矢田洋三理事長が理念として「偏見のない精神科医療」の下に「身体合併症を診療できる」病院、地域貢献を主眼とした開かれた病院を目指し、昭和58年(77床)の准

総合病院として開設されました。以後機能・施設の拡充を行い、現在は319床(うち一般科101床、精神科218床)の袖ヶ浦市唯一の病院として、地域医療や二次救急病院、精神科基幹病院の役割を果たしています。内



科、外科、心療内科精神科、整形外科、リハビリ科等の他、健診センター、老人性認知症疾患医療センターがあり、関連施設としてクリニック2、訪問看護ステーションの他、社会福祉法人4施設と精神障害者地域支援センターが併設されています。特色としてベトナム看護師を10年以上前から受け入れ、日本人も一目おろく語学力と看護力が高く評価されています。施設ではフィリピンやインドネシアEPAの介護士を受け入れています。

精神科は救急入院料算定病棟(スーパージョイント)を有する千葉県精神科救急

基幹病院として房総半島の救急をカバーする一方、児童思春期から認知症の高齢者(認知症疾患医療センター)まで多機能に診療を行っている。内科、外科などの科は地域医療の一般診療を行う他、精神科における身体合併症(高齢者や神経性無食欲症等)を診療し、精神科と相互に助け合う関係にあり、お互いにコンサルトしやすいのが特徴です。

また精神科初期臨床研修協力病院であり、北(市原市)の帝京大学ちば総合医療センターと南(木更津市)の君津中央病院(千葉大学研修プログラム他)から、精神科の研修医を受け入れています。精神科患者のイメージが変わり、志望の科で精神疾患やせん妄状態などに苦手意識なくプライマリーに対応できる力をつけることを目標としています。他科と精神科の有機的な連携も目指しています。研修は1ヶ月1~2名を受け入れ、担当医と共に診療にあ

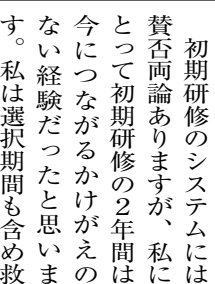
分通勤圏内で車通勤が多く、また昼食付です。救急病棟等の回診、外来予診、デイケア参加、各施設の見学、地域連携の実地などが日課です。薬物療法から専門的な技術まで解説を行う頻回のクルズスが好評で、レポートの添削指導も行います。当直も1回経験します。当院は他に医学部5年生のBSJや指定医・専門医取得が可能なレジデント研修も行っています。

千葉大学からは理事長・矢田洋三(昭44)、院長・菊池周一(平元、平8院)、副院長・久保聡志(平5)、健診センター長・近藤春樹(昭47)、内科医長・上村重明(昭48)、佐々木(古瀬陽子(平6、平16院)、精神科部長・石毛稔(平6、愛媛大)、老人性認知症疾患医療センター長・細井尚人(平6、富山医大)、精神科筆頭医長・鈴木均(平11、秋田大)、大掛真太郎(平10、平18院)、脳外科医長・末吉貫爾(昭36)ほかに関連施設の老人保健施設カトレアンホーム施設長・佐藤甫夫(昭35、昭40院、千葉大学名誉教授)、かずさアカデミアクリニックス院長・村上和(昭32)、さつき台クリニック院長・鎌田千華(平6)が在籍し



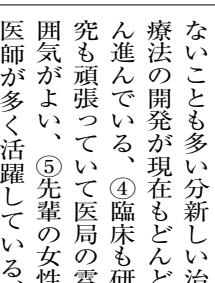
ており、千葉大学とも結びつきの深い病院です。今後も千葉大学との連携を密にして、より高い医療レベルを目指し、臨床・教育・研究を進展させていきたいと考えています。また研修医の皆様のご意見からさらに満足していただける研修を充実して参りたいと思

私は初期研修2年間を松戸市立病院で研修し、3年目から血液内科に入局しました。この4月で4年目になります。3年目は前半の半年を大病院の血液内科で勤務し、旧第二内科の「患者さんの全身を診られる総合内科医の育成」の精神の下、現在は成田赤十字病院で内科全般を主治医としての立場でもう一度勉強させていただいている所です。



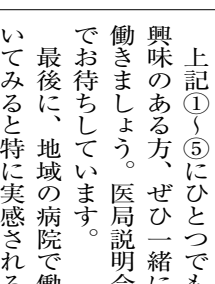
思います。今後の重点として高齢化によるいわゆる「孤老死」を一人でも減らすため、各機関との連携を密接にして有効な地域生活支援を行ってゆく所存です。同窓の皆様のおたたくご支援を賜りますようお願い申し上げます。

初期研修のシステムには賛否両論ありますが、私にとって初期研修の2年間は今につながるかけがえのない経験だったと思います。私は選択期間も含め救急を5か月、内科系を全部で10か月ローテートしました。それぞれの科の手法や疾患概念、身体所見や様々なデータの考え方、治療法についてその道のエキスパートからしっかり教わる事ができる贅沢な時間でした。今振り返ると「あの時ももっとと貪欲に勉強して指導医にくらいついておけば…」と後悔の念に苛まれることもしばしばあります。



血液内科入局にあたっての理由は数えきれないほどありますがあえて5つあげると、①全身疾患であり内科的集中管理が必要で自分のやりたいことと合っている、②患者さんと長く付き合える、③まだわかっていないことも多い分新しい治療法の開発が現在もどんどん進んでいる、④臨床も研究も頑張っていて医局の雰囲気がいよいよ、⑤先輩の女性医師が多く活躍している、ということでした。

大病院では化学療法や移植を一緒に乗り越えて元気に退院していく患者さんの姿をみたり、その患者さんが病棟に遊びに来てくれたりすると入院期間が長くつらい治療である分嬉しさも倍増でした。また患者さんが治療の間に急変して病態解明もできない間に亡くなり、悔しすぎて泣いてしまったことも何度かあります。



最後に、地域の病院で働いてみると特に実感されるのですが千葉県は本当に医療過疎です。人手不足で一時は基幹病院ですら救急や内科の体制が崩壊しかけていました。今は何とか立ち直ってきたところだと思いますがまだまだ医師が足りていないことに変わりはありません。一人でも多くの方が千葉大に戻って、千葉県の医療を一緒に支えていってくださることを切に願っています。

白衣式祝辞

二〇一一年四月八日(金)
於第一講義室

なのはな同窓会会長 伊藤晴夫

皆さん、この度は、厳粛な中にも晴れやかな白衣式の日を迎えられ、まことにおめでとございます。また、ご家族の皆様のお喜び・期待も大きいことと思

います。心より、お祝い申し上げます。今回は千葉大医学部の第1回目の白衣式でありまして、特に、準備に当たられました教職員の皆様のご努力に深く感謝致します。現在は東日本震災のさなかであり、困難と呼ぶべき状況ですが、学生の皆さんの心の中にも、きつと将来の社会貢献への思いが湧き上がってきていることと思ひます。皆さんと一緒に、被災にあわれた方々に謹んでお見舞いを申し上げ、被災地の状況が好転してゆくことを心よりお祈り致したいと思ひます。皆さんは4年間の基礎的な勉強を終えて、これから、student doctorとしての生活が始まる訳です。この言葉は、studentではあるけれどdoctorであるという責任と誇りを表わす良い言葉だと思ひます。先輩の一人として、皆さんのこ

れからの成長、活躍を大いに期待しております。少し同窓会のご紹介をしたいと思ひます。なのはな同窓会は全国医学部の同窓会の中でも屈指の歴史と規模を誇っており、会員数8千人以上であります。その目的の一つは、会員の親睦と医道の高揚であり、もう一つは医学部の支援であります。大学に対する支援としては、例えば、なのはな同窓会賞を通じた研究助成や、図書館の助成、この白衣式を含め、学生寮の雄翔寮、東日本医学生体育大会の支援、留学生交流会の支援等、学部学生や大学院生の支援にも力を入れております。皆さんは、現在は学生会員、卒業と同時に正会員であります。将来は、同窓会員としても活躍され、大学を支援する立場に回られることを願っております。面白いことに、今から約50年前に発行された千葉大医学部八十五年史を読んでみますと、当時の若い人の同窓会離れが大きな問題になっております。そのころ若かった人が、現在は



同窓会の重鎮となり、次第に愛校心が湧いて来て、今度は、今の若い人の同窓会離れを嘆いています。歴史は繰り返すと申しますが、



皆さんは歳を取る前に是非、母校を愛する気持ちをも身につけて下さい。

一般に、千葉大医学部の学生・卒業生は優秀で、一人でも充分やっつけていけるという自信があるせいとか、団結心が希薄だと云われることが良くあります。もちろん、排他的な内向きの集団を形成すれば良いというものではありません。皆さんの千葉大医学部の学生・卒業生であるという誇りと、また、ここで学び学生時代を過ごしたという記憶を共有して、同窓生が和気あいあいと親睦の輪を広めて行くことは大変楽し

いことです。同窓会では、8千部以上の発行部数を誇るなのはな同窓会報に加え、最近ではホームページも充実してきております。特にお願いしたいのは、IT、ICTが得意な若い皆さんはホームページ作り等にも積極的に参加して情報発信を行って頂きたいと思ひます。皆さんが卒業するころには、現在医学部創立135年記念事業の一環として設計を進めている新しい同窓会館も、図書館の前という非常に良い場所に完成します。学生、教職員、卒業生達が集い親交を深める絶好の場になると思ひます。是非、こういった施設も活用して頂きたいと思ひます。皆さんご存知のように、千葉大医学部は、基礎・臨床を問わず世界的な業績を挙げられた方々を輩出しています。また地域医療、行政などの分野に於いても大活躍をしておられる先輩

白衣式について

第1回白衣式企画担当

総合医療教育研修センター教授 田邊政裕(昭49)

1988年に米国コロンビア大学医学部のアーノルドP・ゴールド教授が医療におけるヒューマニズムの実現を目指して財団(The Arnold P. Gold Foundation)を設立しました。白衣式はその活動の一環として、1993年にコロンビア大学医学部において初めて行われました。以来、この式は急速に全米で広まり、現在では米国の90%以上の医学部で実施され、我が国でも多くの大学で行われています。

方が多数いらつしやいます。例えば、日本医師会の第17代会長を唐澤祥人(よしひと)先生が勤められたことは、記憶に新しいところですが、皆さんも、こうした先輩達に習い、卒業までの2年間 student doctorとして、art and scienceを習得し、特にhumanityを磨いていって頂きたいと思ひます。いつまでも、今日この日の思いを胸に刻んで下さい。

以上、簡単ですがお祝いの言葉を述べさせていただきますました。

は、プロフェッションナリズムを学生に修得させるために、卒業目標の最初に「倫理観とプロフェッションナリズム」を掲げています。第1回の白衣式を実施するにあたって、本学では以下の目標を掲げました。(1)医学生が医師になるために患者を診療できる基本的能力を修得し(スチューデント・ドクターの称号を与える)、本格的なトレーニング(クリニカル・クラークシップ)を開始することを医学部及びその関係者で祝福する。(2)医学生が医療者の一員として、患者さんに直に接する立場となる自

覚を新たに。授業(臨床入門)の一環として医学生が医師に求められる大切な心構え「誓いの言葉」を考察・作成・宣誓する。卒業目標の「倫理観とプロフェッショナルリズム」を実践できる、責任ある専門職業人としての意識(プロフェッショナルリズム)を修得する。

「誓いの言葉」を作成し、白衣式では全員で力強く宣誓しました。新5年生となった学生たちは、新しく付与された医学部本館のマークの入った白衣を身に付けて、病棟での臨床実習に励んでいます。今後の彼らの更なる成長を期待します。最後に、今回の白衣式を挙行するにあたってご支援いただいた、医学部後援会、るのほな同窓会、医学

部教授会の皆様に深謝いたします。

誓いの言葉

私たちは、仲間と協力し合い (Cooperation)、患者さんに誠実に向き合い (Honesty)、より良い医療を目指して (Integration)、最善をつくす (Best)、努力し続ける (Aspiration) 誓います。

同窓会員著書の紹介

櫻本美輪子
定 真理子 著

子どもが丈夫になる食事

二〇二一年発行

ワニブックス 一、一四三円(税抜)
小松川クリニック 櫻本美輪子(平之)



「など、様々な悩みを持つ彼らに、毎日のような食事やおやつを食べているのかを聞くと、ほとんど例外なく問題点が見つかります。実際に血液検査をしてみると、こんなに飽食の時代にも関わらず、栄養障害の若者がなんと多いことかと驚きます。私は「分子整合栄養医学」に出会う前までは、通常の心療内科で行われているように、カウン

当院の心療内科には、最近、小中学生や高校生が来院するケースが増えていきます。「朝起きられない」「学校に行けない」「気持ちが悪く落ち込む」「イライラする」「ドキドキして息苦しくな

セリングや向精神薬を中心とする薬物が診療の中心でした。しかし、心身の成り立ちを細胞レベルの栄養素から考える分子整合栄養医学的アプローチを始めてから、これが成長期の患者さんの疾病予防や治療として非常に有用な方法であると、日々実感しています。今までの常識を覆す、しかし実に科学的根拠に基づいた理論であるこの学問を、医療関係者の方々にも、一般の方々にも是非知ってもらいたいと思います。



栃木るのほな会 平成23年 第8号

とちぎ るのほな 第8号

..... 目 次

巻頭言	千葉大学医学部・創立135周年..... 坂田 早苗 (昭34卒)..... 1
総 会	平成23年度 栃木県るのほな会 総会プログラム..... 2 会務報告..... 3 平成22年 会計報告..... 4 総会アルバム..... 5
全国るのほな会長 ご挨拶	伊藤 晴夫先生 (昭39卒)..... 10
関連病院だより	とちの木病院..... 木内 信: (昭48卒)..... 12 下都賀病院..... 村野 俊一 (昭50卒)..... 13 上都賀病院..... 十川 康弘 (昭55卒)..... 14 福田記念病院..... 福田 武雄 (昭42卒)..... 15 養協医科大学病院..... 深澤 一雄 (昭55卒)..... 16 宇都宮記念病院..... 崎尾 秀彰 (昭44卒)..... 17 済生会宇都宮病院..... 戸邊 豊穂 (平元卒)..... 18
るのほな仲間	大豆原..... 本沼 三郎 (昭23卒)..... 20 寒 威..... 布川 武男 (昭32卒)..... 21 打 水..... 上山 永晃 (昭33卒)..... 22
エッセイ	全国るのほな同窓会 平成22年活動報告..... 大井 利夫 (昭35卒)..... 23 追憶(アイガーに魅せられて)..... 柴崎 晃 (昭28卒)..... 26 富士山と私..... 齋藤 弘司 (昭43卒)..... 29 ある映画館の終焉..... 須田 啓一 (昭52卒)..... 31 challenge、また再び..... 藤原 謙之 (昭47卒)..... 32 定年を迎えて..... 一丁 彰 (昭45卒)..... 33 宇都宮るのほな会とあひのほな生活習慣病研究会..... 杉田 敏夫 (昭50卒)..... 34 私の済生会宇都宮病院時代と飯田病院での1年..... 森 徹久夫 (昭51卒)..... 34
るのほな総会より	千葉るのほな会 会長 ご挨拶..... 三枝 一雄 (昭32卒)..... 36 静岡るのほな会 会長 ご挨拶..... 佐藤 通 (昭35卒)..... 36 東京るのほな会 会長 ご挨拶..... 斎藤 尚徳 (昭45卒)..... 37 埼玉るのほな会 深谷赤十字病院 院長 ご挨拶..... 諏訪 敏一 (昭43卒)..... 37
表紙絵のごとび・編集後記 39
会員名簿 40
栃木県るのほな会 会則 43

編集：元栃木県医師会 会長 片山 一郎

とちぎ るのほな

平成23年 第8号



栃木県るのほな会

千葉大学医学部るのほな同窓会栃木県支部



オンライン会報から考える 大学の真価

望まれる統合型危機管理科学に 立脚する総合大学 広報担当常任理事 鈴木 信夫 (昭47)

オンライン会報へのアクセス数は毎年増加し、平成19年の開始年度に2600件ほどであったものが、平成22年度は、9000件近くとなり、その過半数が新規アクセス数でした。...

「保健管理センターの設立へ向けて、学生の視点から、群馬大学の実績などを調査してくれませんか？」

筆者が千葉大学医学部へ入学時、大学本部事務官からの依頼です。クラス仲間へのアンケート調査も含め、報告書をなんとか作成しました。

47)らによる機構の紹介動画をご覧ください。 さて、上述の機構紹介を

文部科学省により公表されている平成22年7月15日付け「国立大学法人化後の現状と課題について」の中

管理という視点での展望が見られないのです。大学人という多種多様な人材をよ

折りしも、本執筆中に、東日本大震災に遭遇しました。SOS生命科学の創成

考察するに、それぞれの分野の専門家集団を輩出してきた国立大学のあり方が問

ぎ落とし、日常構築すべき事は何であるかを問うこと

動画掲載ご協力をお願い

- 1. ご掲載を希望される場合は、ソニーハンディカムをご利用の上、DVDをのほな同窓会へご送付ください。

オンライン会報編集員募集

現在、オンライン会報へのアクセス件数は、毎月700件以上(新規訪問者は400件以上)あります。

広報担当常任理事 鈴木 信夫 E-mail: nobuo@faculty.chia-u.jp

オンライン会報へ平成23年1月以降掲載した動画・記事の案内

Table with columns: 掲載コーナー, タイトル, 解説者・講演者・企業名など. Includes entries for hospital introduction, interviews, and disaster-related reports.

平成23年度 医学部入学者

Table listing names of medical school students in Heisei 23, organized by department and name.

平成23年度 大学院入学者

Table listing names of graduate school students in Heisei 23, including their departments and supervisors.

子、西村倫太郎、矢幅美鈴、石川啓史、小澤公哉、梶山貴嗣、久保田暁彦、中込敦士、橋口直貴「心臓血管外科学」植西倫子「精神医学」小田靖典、木村敦史、櫻井大路、山中浩嗣「公衆衛生学」左勝則「環境労働衛生学」久保恵子「法医学」千葉文子「環境生命医学」落合伸伍「和漢診療学」島田博文「神経科学」白井有美、高橋芳雄「病態検査医学」石毛崇之、菊地涉「呼吸器病理学」岩本雅美、河内由布子、鈴木理樹「放射線治療学」深堀麻衣「呼吸器病態外科学」鎌田稔子「口腔科学」氏家秀樹、宇野澤元春、岡本篤志、笠間洋樹、小山知芳、信田智美、李正知「耳鼻咽喉科学」内田亮介、大木雄示、大熊雄介、蒔田勇治「整形外科学」赤津頼一、稲毛一秀、遠藤純、大前隆則、岡田憲太郎、小川泰史、葛城稷、木島丈博、小林倫子、西能健、佐々木裕、萩原茂生、府川泰輔、山口毅「消化器病態学」沖元謙一郎、叶川直哉、清野宗一郎、坂本大、鈴木広和、渡邊悠人「臓器制御外科学」秋山貴洋、椎名伸充、西田孝宏、藤咲薫、前田慎太郎、三島敬、宮

内洋平、吉田充彦「小児病態学」及川純子、高谷里依子、水落弘美「小児外科学」三瀬直子「臨床推論学」太田光泰、梶原秀喜、鋪野紀好、比留川実沙「遺伝子制御学」細川淳一、山形美絵子「分子生体制御学」吉岡健人「代謝生理学」森田亜州華「認知行動生理学」石川亮太郎、大島郁葉、富澤はるな、永岡紗和子、松本悟志「眼科学」野々村咲子「神経内科学」別府美奈子、三津間さつき「分子遺伝学」趙莎莎「分子腫瘍病理学」増田涉「生殖機能病態学」林伸彦、山本憲子「分子腫瘍生物学」秋田直洋、金子伊樹「先端外科学」赤沼直毅、OLZ WET、仙波義秀、豊住武司、花岡俊晴、藤戸寛迪「救急集中治療医学」加藤真優、橋田知明、松村洋輔「細胞治療内科学」石橋亮一、賀鵬、佐久間一基、杉田泰雅、樋口誠一郎、山崎敦子「分子代謝制御学」西居桂吾「皮膚科学」中野倫代

香、高橋克己「感染症体防御学」石川敬「免疫制御学」清水努「分子腫瘍生物学」佐藤俊平、高野絢美、吉田早哉香「小児病態学」小澤直子「循環病態医学」小原由香「放射線防御機能学」幸田華奈「公衆衛生学」猪又はるこ、篠木絵理、原田奈美「環境生命医学」瀬沼美華「分子病態解析学」柿沼翔子、藤沼裕希「認知行動生理学」佐藤正司、寺田秀範、平野潤

人事異動

香、高橋克己「感染症体防御学」石川敬「免疫制御学」清水努「分子腫瘍生物学」佐藤俊平、高野絢美、吉田早哉香「小児病態学」小澤直子「循環病態医学」小原由香「放射線防御機能学」幸田華奈「公衆衛生学」猪又はるこ、篠木絵理、原田奈美「環境生命医学」瀬沼美華「分子病態解析学」柿沼翔子、藤沼裕希「認知行動生理学」佐藤正司、寺田秀範、平野潤

耳鼻咽喉科 同助教より 櫻井 大樹 (平9) 呼吸器外科 同助教より 星野 英久 (金沢大・平7) 手術部 同助教より 長嶋 健 (昭63) 他大学教授就任 昭和大医学部 形成外科・美容外科 吉本 信也 (昭和大院・昭57) 東京医科大学茨城医療センター 緩和医療科 山下 直人 (昭57) 東京女子医科大学八千代医療センター 呼吸器外科 関根 康雄 (昭62) 獨協医科大学医学部薬理学 安西 尚彦 (平2) 病院長 長野県立こども病院 原田 順和 (昭53) 千葉県がんセンター 酒井 光弘 (平3) 主任医長 (医長) 趙 明浩 (平3) 主任医長 (医長) 坂下 美彦 (平3) 主任医長 (医長) 長門 芳 皆川 真規 (平元) 主任医長 (新採) 尾内 康英 (宮崎医大・平13) 医長 (新採) 相馬 寧 医長 (新採) 救急医療センター 酒井 芳昭 (岡山大・平2) 医療局診療部 循環器治療科 部長 (主任医長) 松野 公紀 (平3) 主任医長 (医長) 賀川 真吾 (平14) 医長 (新採) 村田八千穂 (九州大医) 医長 (新採) 循環器病センター 村山 博和 (昭55) 副センター長 (医療局診療部長) 松尾 浩三 (昭55) 医療局診療部長 (医療局診療部) 林田 直樹 (愛媛大・昭54) 医療局診療部 心臓血管外科部長 小川 喜胤 (平15) 医長 (新採) 伊藤 良浩 (平16) 医長 (循環器病センター) 医療局診療部 高柳 正樹 (金沢大・昭50) 副病院長 (医療局長) 皆川 真規 (平元) 主任医長 (新採)

千葉県がんセンター 酒井 光弘(平3) 主任医長(医長)	趙 明浩(平3) 主任医長(医長)	坂下 美彦(平3) 主任医長(医長)	長門 芳 主任医長(医長)	尾内 康英(宮崎医大・平13) 主任医長(医長)	相馬 寧 主任医長(医長)	救急医療センター 酒井 芳昭(岡山大平2) 主任医長(医長)	松野 公紀(平3) 主任医長(医長)	賀川 真吾(平14) 主任医長(医長)	村田八千穂(九州大医) 主任医長(医長)	循環器病センター 村山 博和(昭55) 主任医長(医長)	松尾 浩三(昭55) 主任医長(医長)	林田 直樹(愛媛大・昭54) 主任医長(医長)	小川 喜胤(平15) 主任医長(医長)
------------------------------------	----------------------	-----------------------	------------------	-----------------------------	------------------	--------------------------------------	-----------------------	------------------------	-------------------------	------------------------------------	------------------------	----------------------------	------------------------

伊藤 良浩(平16) 主任医長(循環器病センター医師)	こども病院 高柳 正樹(金沢大・昭50) 副病院長(医療局長)	皆川 真規(平元) 主任医長(新採)	富板美奈子(平元) 主任医長(新採)	松浦 玄(平11) 主任医長(新採)	柿崎 潤(平13) 主任医長(新採)	佐原病院 五反田 純(金沢大・昭52) 副病院長(医療局長)	庭野 元孝(昭48) 主任医長(新採)	西森 孝典(平7) 主任医長(新採)	角田 慎輔(平12) 主任医長(新採)	深見 悟郎(平7) 主任医長(新採)	精神保健福祉センター 次長(新採)	外科部長(医長)	医療局診療部長	心臓血管外科部長	医療局診療部長
--------------------------------	---------------------------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	--------------------------------------	------------------------	-----------------------	------------------------	-----------------------	----------------------	----------	---------	----------	---------

千葉県職員より退職

丸岡 正幸(昭50) がんセンター医療局長	宮崎 義也(昭61) 救急医療センター主任医長(新採)	石毛 聡(浜松医大・平10) 循環器治療科部長	丹羽公一郎(昭51) 循環器病センター主任医長(新採)	江畑 亮太(平11) こども病院医長	岩崎好太郎(福島医大・昭63) 東金病院診療部長	守屋 秀繁(昭42) 千葉市市立病院事業管理者
--------------------------	--------------------------------	----------------------------	--------------------------------	-----------------------	-----------------------------	----------------------------

千葉市職員人事

日時：平成23年2月17日(水)
場所：東京ガーデンパレス 御茶ノ水3F「橘」
出席者：伊藤晴夫(会長)、大井利夫(副会長)、濱松高穂(副会長)、青木謙、岩倉弘毅、税所宏光、三枝一雄、早乙女勇、坂田早苗、佐藤通、白澤浩、鈴木信夫、鈴木守、瀧口正樹、田中光、田邊政裕、角田隆文、吉川廣和、吉原俊雄(敬称略)

平成22年度第3回常任理事会議事要旨抜粋

会報発行 平成23年5月、9月、平成24年1月
同窓会賞決定 平成23年4月20日(水) 学会研究助成決定 平成23年11月17日(木)
2. 平成22年度総会について
1により開催日程が承認され、担当は大学、開催場所は東京とすることとした。
3. 役員交代について
瀧口理事より資料に基づき、平成23年度に2年の任期満了となる役員の変更について、関連する会則等の説明に続き、前例により会長候補者の推薦を現正副会長に依頼した旨説明があった。常任理事については、各支部等における退任者の後任を候補者として理事会(総会と併催)に推薦する旨提案され、承認された。

算について、概ね順調に執行され、IT関連事業支出が若干予算を超えた旨、報告があった。
2. 新のはな同窓会館設立事業について
田邊理事より資料に基づき、建物内部設備を充実させるため32%の延床面積増加が望まれ、これに伴う建築工事費の増額の概算について説明があった。延床面積の変更や同窓会基金よりの支弁要請等を記念事業会建築委員会等にて検討、その結果を常任理事会に諮ることとした。また、医学部の歴史をパネル展示する回廊式のメモリアルウォールの建築に関しての設計者からの提案について説明があった。
3. 広報・編集関係
鈴木信夫理事より資料に基づき、5月17日発行予定の会報について、また、オンライン会報のアクセス数、動画掲載についての説明があった。

5. 委員会報告
(1)あのはな同窓会賞検討委員会
田邊裕理事より、学術賞について検討中であり、新たに社会貢献賞など地域医療等に貢献している会員を対象とした賞を検討していることが報告された。
(2)評議員会検討委員会
吉原俊雄理事より、理事、評議員のあり方を検討しながら、各方面からの意見を求める旨、また、各学年の代表、各地区のはな会からの代表が同窓会を活性化し、運営できるように更に検討する旨、報告された。
懇談事項
1. 平成23年度予算編成について
白澤浩理事、瀧口理事より資料に基づき、慢性的な繰越金減少を是正するため、平成23年度予算編成に当たって減額案について説明があった。あのはな同窓会賞については検討中であり、留学生奨学金は減額あるいは廃止、その他の項目でも減額の必要が説明された。

住所変更・勤務先変更された方は同窓会事務局までご連絡ください。

個人情報保護法のため、異動先が把握しにくくなっております。ご協力くださいますようお願いいたします。

事務局
FAX : 043-202-3753
E-mail : info@inohana.jp

東日本大震災における千葉大学医学部附属病院の救援活動

●DMAT

第1班 平成23年3月11日(22:25出発)～12日(19:20帰着)

活動場所：水戸協同病院

医師：貞広智仁、瀬戸口大典(救急部・集中治療部) 看護師：上野博一(ICU)、関口貴恵(材料部) 調整係：鈴木貴明(薬剤部)、高原 一(総務課)

第2班 3月13日(01:30出発)～15日(02:45帰着)

活動場所：仙台医療センター

医師：仲村将高、瀬戸口大典(救急部・集中治療部) 看護師：千葉 均(感染症管理治療部)、木曾紀宗(ICU) 調整係：大久保正人(薬剤部)、岸田友治(医事課)

第3班 3月14日(14:30出発)～17日(14:30帰着)

活動場所：宮古病院

医師：貞広智仁、立石順久(救急部・集中治療部) 看護師：関口貴恵(材料部)、上野博章(ICU)、調整係：山崎伸吾(薬剤部)、高原 一(総務課)

●第1次医療救護班

活動場所：石巻赤十字病院

第1班 3月16日～19日

医師：溝渕輝明(呼吸器外科)、猪狩英俊(感染症管理治療部)、渡邊栄三(救急部・集中治療部) 看護師：木曾紀宗(ICU)、中嶋秀明(ひがし4F)

第2班 3月18日～21日

医師：中島裕史(アレルギー・膠原病内科)、当間雄之(食道胃腸外科)、織田成人(救急部・集中治療部) 看護師：江幡智栄(教育・研修室)、高鹿ゆかり(手術部) 薬剤師：鈴木貴明

第3班 3月20日～23日

医師：須田浩介(肝胆膵外科)、高木敦子(小児科) 看護師：千葉 均(感染症管理治療部)、菅原久純(にし10F) 事務：宇津野恵美(検査部)、岸田友治(医事課)

第4班 3月22日～25日

医師：大平善之(総合診療部)、今西俊介(食道胃腸外科) 看護師：岩田夏奈(ICU)、羽生田裕子(NICU・GCU) 薬剤師：大久保正人

第5班 3月24日～27日

医師：生坂政臣(総合診療部)、大西俊一郎(糖尿病・代謝内科)、貞広智仁(救急部・集中治療部) 看護師：水流添秀行(ひがし3F)、小出佳奈(ICU) 理学療法士：澤田奈津子

第6班 3月26日～29日

医師：渡辺 哲(感染症管理治療部)、柴田涼平(小児外科) 看護師：高須清子(外来)、金盛琢也(にし6F)、関口貴恵(材料部) 薬剤師：山崎伸吾

第7班 3月28日～31日

医師：内川英紀(小児科)、久保嶋麻里(食道胃腸外科) 看護師：中川 笑(ICU)、増戸優貴(ICU) 理学療法士：山内 誠

●第2次医療救護班

活動場所：南三陸町避難所(東大、名古屋大と3大学で交代)

第1班 4月2日～6日

医師：竹内 男(肝胆膵外科)、清水逸平(循環器内科) 看護師：平間陽子(ICU)、津野祥子(地域医療連携部) 薬剤師：三浦 剛 事務：三田康人、鈴木健之(亥鼻地区事務部)

第2班 4月13日～16日

医師：渡辺 哲(感染症管理治療部)、廣瀬晃一(アレルギー・膠原病内科)、安部隆三(救急部・集中治療部) 看護師：桜井博子(ひがし2F)、瀧 朱音(光学医療診療部) 薬剤師：増田和司、事務：鈴木篤志(管理課)

●心のケアチーム

活動場所：東松島市

第1班 3月29日～30日

医師：伊豫雅臣(精神神経科・子どものこころ診療部)、木村 大(精神神経科)

第2班 4月2日～6日

医師：新津富央(精神神経科)、木村 大(精神神経科)

第3班 4月16日～19日

医師：新津富央(精神神経科)、佐藤愛子(精神神経科) 看護師：浜口愛弓(ひがし3F)

●救援物資輸送(医薬品等)

3月13日 東北大学

事務：塩崎英司(総務課)、尾崎 智(管理課)

3月19日 陸前高田市

医師：織田成人(救急部・集中治療部)、看護師：木曾紀宗(ICU)

3月19日 福島県立医大

事務：佐川光男(経営企画課)、石川 薫(管理課)、山口智也(管理課)

第2次医療救護班、心のケアチームは今後も継続派遣の予定です。

平成23年卒業生の卒後研修先

千葉大学医学部附属病院では、卒後臨床研修プログラムとして、5種類（プログラムA、B、C、産婦人科、小児科）を用意している。1年目に大学病院、2年目に協力病院で研修する方式（プログラムA）、1年目に協力病院、2年目に大学病院で研修する方式（プログラムB）、1年目・2年目共に大学病院で研修する方式（プログラムC）、その他である。

また、卒後2年間の初期研修プログラムを終えた研修医を対象に後期研修医制度を立ち上げ、シニアレジデントの受入にも積極的に対応している。

研修先プログラム	1年目	2年目	人数	研修先プログラム	1年目	2年目	人数
千葉大 A	千葉大学医学部附属病院	君津中央病院	1	名古屋第二赤十字病院	名古屋第二赤十字病院	名古屋第二赤十字病院	2
千葉大 B	千葉市立青葉病院	千葉大学医学部附属病院	3	横浜労災病院	横浜労災病院	横浜労災病院	2
千葉大 B	国立病院機構千葉医療センター	千葉大学医学部附属病院	2	都立墨東病院	都立墨東病院	都立墨東病院	2
千葉大 B	君津中央病院	千葉大学医学部附属病院	2	虎の門病院	虎の門病院	虎の門病院	2
千葉大 B	成田赤十字病院	千葉大学医学部附属病院	1	聖隷浜松病院	聖隷浜松病院	聖隷浜松病院	2
東大医学部附属病院 B	東芝病院	東大医学部附属病院	1	東京通信病院	東京通信病院	東京通信病院	2
東大医学部附属病院 B	JR 東京総合病院	東大医学部附属病院	1	沖縄県立中部病院	沖縄県立中部病院	沖縄県立中部病院	2
東大医学部附属病院 C	東大医学部附属病院	東大医学部附属病院	4	千葉労災病院	千葉労災病院	千葉労災病院	1
東京女子医科大学八千代医療センター	東京女子医科大学八千代医療センター	東京女子医科大学八千代医療センター	2	京都第二赤十字病院	京都第二赤十字病院	京都第二赤十字病院	1
東京医科歯科大学医学部附属病院Ⅱ	日産厚生会玉川病院	東京医科歯科大学医学部附属病院	1	都立駒込病院	都立駒込病院	都立駒込病院	1
慶應義塾大学病院 B	永寿総合病院	慶應義塾大学病院	1	国立国際医療研究センター国府台病院	国立国際医療研究センター国府台病院	国立国際医療研究センター国府台病院	1
東京歯科大学市川総合病院	東京歯科大学市川総合病院	東京歯科大学市川総合病院	1	川鉄千葉病院	川鉄千葉病院	川鉄千葉病院	1
君津中央病院	君津中央病院	君津中央病院	7	小張総合病院	小張総合病院	小張総合病院	1
船橋市立医療センター	船橋市立医療センター	船橋市立医療センター	5	松戸市立病院	松戸市立病院	松戸市立病院	1
国立病院機構東京医療センター	国立病院機構東京医療センター	国立病院機構東京医療センター	4	千葉県立病院群外科	佐原病院		1
済生会習志野病院	済生会習志野病院	済生会習志野病院	4	国保旭中央病院	国保旭中央病院	国保旭中央病院	1
千葉県立病院群	千葉県がんセンター 佐原病院		3	三井記念病院	三井記念病院	三井記念病院	1
国立国際医療研究センター	国立国際医療研究センター	国立国際医療研究センター	3	JR 東京総合病院	JR 東京総合病院	JR 東京総合病院	1
国立病院機構千葉医療センター	国立病院機構千葉医療センター	国立病院機構千葉医療センター	2	鶴岡市立荘内病院	鶴岡市立荘内病院	鶴岡市立荘内病院	1
東京都済生会中央病院	東京都済生会中央病院	東京都済生会中央病院	2	八戸市立市民病院	八戸市立市民病院	八戸市立市民病院	1
千葉市立青葉病院	千葉市立青葉病院	千葉市立青葉病院	2	横須賀共済病院	横須賀共済病院	横須賀共済病院	1
日本赤十字社医療センター	日本赤十字社医療センター	日本赤十字社医療センター	2	江戸川病院	江戸川病院	江戸川病院	1
成田赤十字病院	成田赤十字病院	成田赤十字病院	2	河北総合病院	河北総合病院	河北総合病院	1
武蔵野赤十字病院	武蔵野赤十字病院	武蔵野赤十字病院	2	公立昭和病院	公立昭和病院	公立昭和病院	1

新るのほな同窓会館設立事業募金状況

(平成23年3月31日現在)

平成21年の千葉大学医学部創立135周年を機に始めました募金につきまして、下記の方々、施設、団体等からご協力を頂きました。ご芳名は新会館の銘板に刻させて頂きたく存じます。なお、日頃よりご厚情をお寄せ頂いております医療機関等におかれましても、なお一層のご支援を賜れますれば誠に幸甚に存じます。

寄付者一覧

(敬称略)

一般個人

片野 鈴枝
久保田勘也
稲瀬 道和
進藤 輝山

医療機関

(医) 大平会嶺井第一病院
上都賀総合病院
[中] 川鉄千葉病院
埼玉厚生連 熊谷総合病院
(医) 社団よつ葉会介護老人保健施設 さかき光陽
(医) 三愛記念病院
(医) 三愛記念そが病院
下都賀総合病院
(医) みほま病院

企業・法人等

赤星工業(株)
旭化成ファーマ(株)
あすか製薬(株)
アステラス製薬(株)
アストラゼネカ(株)
アルフレックスファーマ(株)
石井食品(株)
(株) 石渡商事
(株) ウチダ和漢薬
栄研化学(株)
エスエス製薬(株)

エーザイ(株)
エース損害保険(株)
(株) エスアールエル
エルメッドエーザイ(株)
大塚製薬(株)
(株) 大塚製薬工場
小野薬品工業(株)
科研製薬(株)
化研生薬(株)
鹿島建設(株)
勝又自動車(株)
(株) 北原防災
キッコーマン(株)
キッセイ薬品工業(株)
杏林製薬(株)
興和(株)
協和醗酵工業(株)
キリンファーマ(株)
グラクソ・スミスクライン(株)
クラシエ製薬(株)
クラシエ薬品(株)
京成建設(株)
小太郎漢方製薬(株)
(株) 小山商会 千葉営業所
佐藤製薬(株)
サノフィ・アベンティス(株)
(株) サラト
沢井製薬(株)
参天製薬(株)
(株) サンリツ
(株) 三和化学研究所
(株) 志学書店
シエリング・プラウ(株)
塩野義製薬(株)
白鳥製薬(株)
(株) 正文社
ゼリア新薬工業(株)
第一三共(株)

大正製薬(株)
大日本住友製薬(株)
大鵬薬品工業(株)
タカイ医科工業(株)
武田バイオ開発センター(株)
武田薬品工業(株)
田辺三菱製薬(株)
(株) 千葉銀行
(株) 千葉京成ホテル
千葉中央会計事務所
千葉日産自動車(株)
中外製薬(株)
(株) 銚子丸
(株) ツムラ
帝人ファーマ(株)
テルモ(株)
トリアエイヨー(株)
(株) 東葛幸文堂
東京海上日動火災保険(株)
財団法人 同仁会
東和薬品(株)
富山化学工業(株)
鳥居薬品(株)
(株) ナリコー
成田山新勝寺
ニプロファーマ(株)
日興コーディアル証券(株)
日本イーライリリー(株)
日本化薬(株)
日本ケミファ(株)
日本新薬(株)
日本製薬(株)
日本臓器製薬(株)
日本たばこ産業(株)
日本ベリンガーヘルハイム
ノバルティスファーマ(株)
(株) パイオニア

萬有製薬(株)
ファイザー(株)
(株) 富士フィルムメディカル
扶桑薬品工業(株)
プリストル・マイヤーズ(株)
(株) ほてい家
ホテルグリーンタワー幕張
ホテルニューオータニ幕張
マイラン製薬(株)
丸石製薬(株)
マルホ(株)
丸万壽司
三井住友海上火災保険(株)
(株) ミノファージェン製薬
明治製菓(株)
持田製薬(株)
(株) ヤクルト
(株) ヤンセンファーマ
ロート製薬(株)
ワイズ(株)
わかもと製薬(株)
千葉大学医学部附属病院
臨床医学研究助成会

浅井 俊治 安達 哲夫
新井 英雄 有里 敬代
飯田 豊 飯田 義三
井窪 保彦 池内 英男
石神 博昭 石田 和弘
和泉みどり 伊東 龍也
井上 憲二 井福 正博
岩花久仁子 海村 昌和
大橋 茂 太田 昌男
大庭 恵 緒方 一
岡本 弘子 奥山 広明
小野 文雄 小谷野 信
小林 洋一 笠間 昭彦

片岡 清 勝俣 賢二
加藤 誠 金子 浩一
上川床総一郎 川端 基彦
菊池 敏美 北爪 秀政
木下 富夫 工藤 琢也
熊谷 武久 蔵田 昌子
黒川 道徳 小曾根卓朗
後藤 喜章 小関 洋男
小西 敏郎 小埜 清
酒井 雄一 櫻井 茂
佐藤 千鶴 佐藤 恒明
下平 坦 鈴木 壽郎
須賀 秀晃 杉浦 英一
泉水 卓 高浦 和彦
高橋 修 高橋 恒雄
竹本 勝己 田島 啓二
田中 清七 塚田 俊行
坪井 良真 富永 庸平
豊田 弘 中川 浩史
永井 玉枝 中川 康
中川 洋一 中田 徹亮
名倉謙二郎 東ヶ崎邦夫
日野修一郎 平山 敏雄
広沢 邦浩 廣瀬 俊夫
藤井 康史 藤田 邦臣
堀井 宏志 前田 雅治
松岡 才二 松田 一男
松村 雅生 三田 信明
武藤大二郎 森 豊
山田 雄一 山本 幸一
与儀 実久 吉井 仁実
吉岡 雅之 吉澤 尚嗣
与芝 真彰 若松 英彦
脇田 正実 和田 正英

医学部教職員等

環境影響生化学
鈴木 敏和
神経生物学
山口 淳 久保 武一
薬理学
坂下 育美
発生物学
川内 大輔 室山 優子
免疫発生物学
細川 裕之 岩村 千秋
山下 政克

救急集中治療医学
仲村 将高
放射線医学
川田 哲也
細胞分子医学
宮城 聡
臨床分子生物学
武川 寛樹
総合診療部
大平 善之
先端和漢診療学寄附講座
関矢 信康 地野 充時
久永 明人

循環型地域医療連携システム学
馬杉 綾子 計良 和範
病理部
谷澤 徹
千葉大医・旧助手会
事務部
清水 富雄 堀江 寛

同窓会員

昭15
田中 洋

昭16 葉丸比呂志 渡邊 彦憲	昭16 倉田 博夫 横江 康夫	昭17 浦野 英夫 森島 猪二	下山 賢次 西澤英三郎	橋本 孝平 藤江 寛忠	水間 正冬	昭17 吉田 芳樹	昭18 梶山 豊 佐藤 進一	竹蓋 莊一郎 田中 進	昭18 川辺 敏 山崎 康弘	山田 悦朗 来仙 隆	昭19 井出源四郎 北澤 幸夫	清水 衛 野際 英雄	平形 義人 竹内 盈	昭19 池 二郎 村島 正博	山崎 衛 石谷 治彦	昭20 長田 浩 草間 隆	近内 康夫 横地 尚	渡邊 昌平	昭20 今島 浩 久保田亨一	鵜澤 壽 勝呂 安	昭21 石原 眞 大磯 英雄	郡山 春男 国井 光智	齋藤 豊一 佐藤 壹三	中島 浩二 萩野 裕	古江 増蔵 本間 三郎	三宅 和夫								
昭22 石郷岡 寛 神山 英明	清水 健三 千田喜久雄	福島 溪二 信藤 羊一	鷺田 一博 茂又 眞祐	昭23 板垣 修造 一色 重義	伊東 和人 上野 高次	海老原恒雄 九島 璋二	窪谷 満雄 齊藤 嘉一	多賀谷 譲 奈良 四郎	西堀 乙彦 平岡 眞	藤崎 滋 前田 裕	昭23 宮崎 隆次 和田 寛	梅沢 亮 大野 信次	專23 梅沢 亮 大野 信次	香取 郁雄 斎川 俊一	三瓶 善康 鈴木 東洋	竹内 盈 橋本 眞	水沼 三郎 渡辺 兼司	昭24 宮入 繁夫 渡辺 兼司	中山 重男 水沼 三郎	君島善次郎 木村 康	石谷 治彦 大林 泰	昭24 石谷 治彦 大林 泰	君島善次郎 木村 康	國府田幸夫 小林 準三	佐々木宣明 鈴木 文男	鈴木 直基 高野 俊男	田中 光 月岡 道雄	土屋 與之 寺島東洋三	中島 令一 中村 和之	長澤 仁一 菱木 達明	福永 和雄 武藤 滋	專24 伊佐 博夫 石井 克巳	石井 眞一 石川 哲也	植草富二郎 太田廣三郎
大橋 平治 岡田 宏一	奥野 文雄 神山 一郎	河野 正賢 霜島 正雄	下坂正次郎 鈴木 一郎	土田 功一 徳政 義和	中村 彰 中村 精男	幡野 永由 久安 徹	福山 正臣 南谷 幹夫	山本 晋吾 山口 寅三	昭25 池田佐嘉衛 佐藤 恒好	越後貫 誠 佐久間光史	葛田 瑞世 稲田 正實	專25 相磯 敬明 青木 宣昭	石毛 義治 市川 邦男	丸城寺 栄 神原 昌言	島田 光重 嶋田 勉	下野 武 高木 美典	竹之内 弘 中澤 甫計	中田 秀明 中野 正義	長嶋 晟 奈良林 定	船曳 甫 宮内謙二郎	森川 二郎 山崎 義人	昭26 横山 宏 渡辺 武夫	阿部 定生 石井 邦夫	伊藤 進 大倉 淳男	久我 哲郎 武井 稔	土手内守人 西宮 脩	細田 裕 柳澤 文憲	大和 洵航 吉田 敏郎	渡部 士郎 吉田 敏郎	專26 大沢 弘和 小関 芳昌	津村 澄雄 内藤 和穂	平川 達		
昭27 阿部 忠夫 有田 文章	井上 幸万 大濱 博利	小川源太郎 昭司	河目 堯介 櫻井 稔	黄田 昭光 住吉 孝男	莊司 榮徳 高見澤裕吉	橋爪 壮 原 恒男	関口 和夫 武宮 三三	得本 真義 中野 清幸	長崎 進 鍋谷 欣市	本間 康正 三橋 慎一	渡辺 勲 渡辺 武	專27 石橋 源三 磯垣 弘	壬生倉 勝	昭28 秋山 龍男 阿部田辰一	石川 佳夫 上野 正和	奥井 勝二 小田 博之	小幡 裕 加藤 一雄	金子 敏郎 唐木 清一	窪田 靖夫 熊谷 信夫	小澁 雅亮 小山隆一郎	澤田 勤也 柴崎 晃	清水 惟義 鈴木 正剛	昭31 庵原 昭一 上原すゝ子	武市 亨 寺島 克郎	戸賀崎義治 成田 光陽	長谷川正博 平田 正雄	本位田泰介 松本 龍二	森山 典男 山下 泰徳	山田 達哉 吉田 道	吉田 恭二 若杉幹太郎	荒木 晃 有馬 道男	大藤 正雄 大原 一夫	鹿山 徳男 佐藤 忠夫	
佐野 迪雄 柴田千葉男	島崎 淳 富岡 清海	中塚 正夫 中野 練一	根本 幸一 長谷川 透	羽生富士夫 福島 通夫	昭30 秋元 駿一 浅見 敦	浅利 行男 新井多喜男	石神 一良 伊谷 昭幸	伊藤 敏夫 岩井 忠志	大坪 雄三 片山 喬	昭33 相原 茲明 安里 洋	小林 昭而 小林 健次	後藤 澄夫 清水 正道	指田 和明 清水 良平	志村 昭光 高橋 康	高橋 宣光 滝口 光雄	十束 支朗 富田 裕	中島 和彦 中野 政雄	永野 俊雄 野本 和男	藤山 嘉信 古屋 大雄	松田三樹雄 丸川 和太	南園 義一 村瀬 靖	森田 茂 横田 俊二	昭31 吉原 一郎 渡辺 英詩	庵原 昭一 上原すゝ子	海老原雄一 小野清四郎	加藤 繁夫 桑原 久	香田 真一 杉山 伸子	辻 輝藏 西原源太郎	船橋 茂 森 碧	山口 慶三 山野 元	有馬 道雄 飯塚 正章	石川 正士 大久保恵司	柏木 登 三枝 一雄	斎藤 幸洋 仙波 恒雄
高橋 柳子 谷川 久一	竹内 清 中村常太郎	戸川 隆一 西村 忠雄	夏目 隆一 野本 昌三	野口 照義 平嶋 毅	林 達幸 藤田 眞	福田 昌利 牧野 耕治	前田 昌利 横尾 敦夫	村上 和 和田 康敬	昭33 依田 勇二 和田 康敬	石川 恭子 安里 洋	石川 恭子 柏戸 正英	磯野 可一 新井 禮子	宇野 一眞 小形岳三郎	岡本 達也 小野寺美津雄	高 稔 小野寺美津雄	加藤 直幸 金子 勇	小林 延年 小林みち子	近藤洋一郎 花岡 建夫	佐藤 俊一 椎名 益男	石川美智子 嶋田 俊恒	清水 文七 菅谷 健彦	清水 文七 菅谷 健彦	昭36 山崎 英雄 武田 従信	長崎 護 新美 仁男	林 國春 谷川 章子	榎垣 有徳 御子柴幸男	赤星 至朗 石川 克夫	植田 伸夫 植村 研一	遠藤 幸男 春日 建邦	倉持 正昭 齋藤 篤	坂田 早苗 塩川 喜之	清水順三郎 清水 精子	高木 良章 多田 富雄	津金澤督雄 関 泰男
野口 徹男 藤田 昌宏	原沢三男 谷嶋 俊雄	矢野 光保 山本 成元	矢野 柁多 横山 哲夫	横山 宏 吉井 功	昭35 雨宮 浩 石川 喙	市村 公道 大井 利夫	岡村 隆夫 軽部富美夫	海保 允 神田 敬	北方 勇輔 草刈 隆	河野 秀三 阪 信	河野 秀三 佐藤 甫夫	佐藤 重明 貞永 嘉久	柳原 秀三 真永 嘉久	中田 益允 千野宗之進	鈴木 茂 嶋田 裕	鈴木 益允 永田 一郎	長谷川鎮雄 藤村 眞示	堀田とし子 堀江 武	真島 吉也 松山 迪也	三橋 稔 増田 善昭	村松 準 谷嶋 つね	昭36 山崎 英雄 横山 孝一	新井 一夫 石下峻一郎	岡田 信道 小越 章平	小野沢沢夫 加藤 喜市	川村 昌義 川村 孝子	栗原 敬二 北原 敬二	栗原 敬二 北原 敬二	黒田 健昭 吉永 雅俊	近藤 省三 今野 昭義	齊藤 利隆 青木 昭義	白石 博康 鈴木 伸典	瀧澤 英夫 関 幸雄	谷口 滋 塚原 重雄

中田 瑛浩	寺嶋 周	楯 二郎	谷 修一	高野 正義	佐藤 裕俊	畔田 浩	栗原 伸夫	北村 温	大和田 英美	大木 勲	穴沢 輝一	浅野 尚	昭38	綿引 義博	油井 信春	山本 駿一	柳沢 健一郎	森 豊	堀口 東司	藤森 宗徳	原田 康行	中山 博	瀬川 襄	杉岡 昌明	斎藤 全彦	黒岩 璋光	小野 幸雄	安達 惠美子	伊藤 文雄	石山 淳一	昭37	吉野 明昭	山崎 修道	松本 生	淵上 隆	福山 悦男	中島 伸之
成瀬 孟	鳥羽 剛	寺嶋 市郎	十河 正寛	玉置 哲也	蘭部 和子	香西 襄	黄田 江庭	金城 和夫	加藤 友衛	大津 裕司	木下 敏子	安達 元明		佐々木 守	吉川 正宏	山口 國行	矢野 靖子	村田 三紗子	布施 吉弘	福士 和夫	伯野 中彦	中村 嘉孝	岩倉 弘毅	宍倉 正胤	油井 真知子	勝田 貞夫	奥山 隆保	入枝 幸三郎	伊東 治武		横山 健郎	守山 洋一	前嶋 清	藤塚 立夫	中田 義隆		
小島 莊明	小澤 弘侑	大木 健資	漆原 昌人	遠山 敬介	青木 至	昭40	米満 道子	山下 武広	山口 正敏	本村 八恵子	三浦 徹蔵	深尾 立	原 輝彦	塚田 正男	高根 健	鈴村 博一	白井 鎮夫	重松 秀一	坂田 晃康	今野 貞夫	古謝 景春	角張 雄二	小野 健次郎	大森 忠昭	大河原 邦夫	上原 朗	飯田 義信	阿部 一憲	秋草 克彦	昭39	若新 政史	宮治 誠	緑川 隆	三木 亮	藤本 重義	林 直諒	野本 泰正
税所 宏光	冠 徹彦	大本 恭平	海老沼 光治	今津 曄	天海 照夫			山本 弘	山下 明美	山下 義忠	村上 信乃	万本 盛三	平形 昭代	那須野 光政	千葉 胤道	高沢 博	鈴木 守	清水 天	崎山 樹	斉藤 裕康	小林 俊憲	木内 政寛	貝田 豊郷	岡野 照美	大塚 嘉則	瓜生 東一	伊藤 晴夫	田井 千津子	鰻坂 秀明	渡部 浩二	村山 憲太	嶺井 進	三井 静	松井 宣夫	平形 征	林 惠美	
伊藤 達雄	関 三千代	昭42	渡辺 一男	鎗田 努	溝口 勝	福田 康一郎	半澤 備	中村 宣生	飯田 龍一	田中 文隆	竹内 豊	高橋 淳一	鈴木 豊	島田 哲男	里村 洋一	三枝 俊夫	小林 英夫	菊池 義公	若新 洋子	大塚 明彦	大島 仁士	飯島 幸雄	天羽 達郎	昭41	渡邊 攻	山田 勝巳	柳沢 貫一	武者 廣隆	服部 芳夫	野口 眞利	長尾 龍郎	角田 興一	竹内 龍雄	高野 元昭	曾野 文豊	島 毅	辛 京碩
大沼 直躬	石井 従道		渡辺 良方	竜 万二	安江 正紀	御園生 正紀	平澤 博之	市川 清子	中島 忍	塚本 嘉一	竹島 徹	高山 和夫	鈴木 弓	白濱 龍興	塩沢 博	佐々木 徳秀	小林 伸行	桑木 綱一	神谷 努	落合 武徳	王子 明	飯島 一彦	新井 茂郎		吉川 広和	山浦 晶	石神 敏子	日景 高志	伊藤 ルミ	西村 和子	栃木 亮太郎	田中 則好	瀧澤 弘隆	黒田 紀子	妹尾 素淵	関谷 宗英	
高岡 邦子	中嶋 弘道	鳥居 敏明	土田 弘基	玉井 輝章	滝川 弘志	諏訪 敏一	鈴木 昭一	佐野 元昭	佐藤 英樹	神津 玲子	久野 宗寛	北原 宏	唐澤 祥人	梶尾 高根	小澤 俊	網代 成子	伊藤 進	磯村 勝美	赤尾 建夫	青木 靖雄	昭43	須藤 壮一郎	篠原 義賢	神津 照雄	窪田 勝也	高橋 容子	奥村 康	遠藤 晴久	日笠 山一郎	林 龍哉	忍 頂寺 紀彰	中村 謙介	宮坂 弘一	田中 健	高崎 一	鈴木 敦子	片倉 透
藤塚 光慶	中村 宏	仲尾 清	鳥居 雅江	千葉 彌幸	田代 直秀	高山 秀	宿谷 正毅	佐藤 文彦	斎藤 弘司	小山 哲夫	栗山 喬之	川村 功	加藤 之康	鹿島 孝	太田 東吾	岩間 汪美	一瀬 正治	足立 英雄	赤井 寿紀	須藤 壮一郎	篠原 義賢	神津 照雄	窪田 勝也	高橋 容子	奥村 康	遠藤 晴久	日笠 山一郎	林 龍哉	忍 頂寺 紀彰	中村 謙介	宮坂 弘一	田中 健	高崎 一	鈴木 敦子	片倉 透		
木村 邦夫	榎本 正満	細山 公子	一戸 彰	小俣 政男	アントニー ショセフ ナポレオン	相田 尚文	昭45	渡辺 義郎	吉田 操	吉田 明弘	山岸 厚子	矢田 洋三	堀江 圭	星山 雅意	林 勝武	西島 浩	東山 義龍	高良 宏明	須藤 壮一郎	篠原 義賢	神津 照雄	窪田 勝也	高橋 容子	奥村 康	遠藤 晴久	日笠 山一郎	林 龍哉	忍 頂寺 紀彰	中村 謙介	宮坂 弘一	田中 健	高崎 一	鈴木 敦子	片倉 透			
黒田 重史	北島 忠昭	梅津 亮二	伊藤 文二	家里 憲二	新井 裕二	和田 力	吉田 行夫	吉井 與志彦	高橋 秀禎	間山 素行	細井 湧一	神崎 頼仁	磯部 洋子	加来 俊貞	大森 耕一郎	内田 朝彦	今田 章	千葉 幸恵	須藤 壮一郎	篠原 義賢	神津 照雄	窪田 勝也	高橋 容子	奥村 康	遠藤 晴久	日笠 山一郎	林 龍哉	忍 頂寺 紀彰	中村 謙介	宮坂 弘一	田中 健	高崎 一	鈴木 敦子	片倉 透			
矢端 幸夫	柳橋 京子	保坂 瑛一	船津 恵一	平野 和哉	濱野 頼隆	丹羽 有一	田畑 陽一郎	多賀谷 茂	高瀬 学	鈴木 直人	櫻井 幸弘	大川 昌権	木口 博之	神崎 頼仁	磯部 洋子	加来 俊貞	大森 耕一郎	内田 朝彦	今田 章	千葉 幸恵	須藤 壮一郎	篠原 義賢	神津 照雄	窪田 勝也	高橋 容子	奥村 康	遠藤 晴久	日笠 山一郎	林 龍哉	忍 頂寺 紀彰	中村 謙介	宮坂 弘一	田中 健	高崎 一	鈴木 敦子	片倉 透	
山室 美砂子	三浦 利重	保坂 善昭	文 隆雄	川村 ひろみ	久田 俊和	浜崎 智仁	中村 欽哉	谷口 櫻子	高橋 誠	河村 和子	杉本 和夫	小林 弘忠	結東 温	木澤 功	金田 庸一	門井 隆司	荻原 泰祐	大友 一夫	牛嶋 周二郎	高瀬 直子	須藤 壮一郎	篠原 義賢	神津 照雄	窪田 勝也	高橋 容子	奥村 康	遠藤 晴久	日笠 山一郎	林 龍哉	忍 頂寺 紀彰	中村 謙介	宮坂 弘一	田中 健	高崎 一	鈴木 敦子	片倉 透	
鈴木 晴彦	白井 厚治	坂口 明	小林 道生	河野 陽一	片桐 博子	君塚 五郎	金塚 順二	笠貫 順二	小川 富雄	大内 美南	上村 重明	岩本 逸夫	上村 加代子	一木 昇	浅野 誠	昭48	脇坂 正美	力武 知之	松川 正明	西野 啓一	長尾 卓	中嶋 征男	若山 曜子	相馬 光弘	菅野 勇	栗原 正	菊池 友允	河西 九三	岡 信男	大野 一英	榎本 貴夫	稲葉 憲之	石川 詔雄	昭47	若林 康之	吉田 孝宣	
鈴木 洋文	須崎 展将	佐藤 澄雄	後藤 健一	高圓 博文	木村 秀樹	木内 信二	兼坂 俊章	小川 清	大場 敏明	梅田 正純	上野 弘明	猪股 泰子	岩田 俊臣	旭 俊臣	渡辺 滋		若山 芳彦	山森 秀夫	檜垣 進	西川 哲男	中村 和郎	唐司 則之	田井 東風	鈴木 信夫	勝呂 徹	真山 和徳	北沢 栄次	加藤 誠	尾形 実	大西 久仁彦	宇津 見和郎	伊藤 文憲			与那嶺 和子		

木村道雄	河内文雄	上村公平	大森景文	上田志朗	麻生誠二郎	秋葉哲生	昭50	弓削一郎	三上恵只	鳩貝文彦	西山眞理子	中村文字	田町誓一	田中眞	武井泉	鈴木亮二	五月女直樹	菊地紀夫	金子作蔵	入江澄子	岩津都希雄	有田正明	青柳光生	昭49	横山淳一	山路正文	守田政彦	保高由美子	前川岩夫	千見寺徹	羽鳥文磨	野口哲夫	灘岡壽英	中村明	徳久剛史	高安賢一	早乙女勇
小出義雄	川口英昭	鴨下博	沖本光典	大塚裕	入江氏康	秋谷徹		渡辺順子	森川眞一	渡辺博子	野村恭子	西山裕孝	土佐純一	田辺政裕	田中善治	高原武幸	佐藤純	木村純	田辺恵美子	片桐誠	江原正明	石神博昭	浅井隆善		山本義一	森山紀之	南昌平	保阪亜莉沙	千見寺ひろみ	広瀬彰	野村馨	内田宏子	永山洋子	内藤威	千葉次郎	高島常夫	
香村衡一	尾崎正彦	稲田晴生	五十嵐辰男	昭52	由佐俊和	松村勉	蒔田国伸	布施秀樹	林春幸	中山朝行	高橋和久	佐藤兼重	坂本薫	児島孝行	黒崎知道	門山周文	小野和則	小野純一	岩崎秀昭	森本典子	赤嶺正裕	昭51	山本博憲	山岸文雄	村野俊一	松谷和徳	増田政久	野積邦義	登坂薫	小林けい子	中尾照逸	戸塚清一	高林克己	勝呂慶子	篠遠直勝	佐伯直勝	後藤信昭
香村玲子	海宝雄一	大迫政智	奥野妙子		山本和夫	八木橋美範	蒔田順子	紅谷明	姫野雄司	南波美伸	寺崎太郎	篠塚正彦	斎藤典男	小松健祐	伊古田裕子	川村健二	鏡味勝	小野元子	大塚芳克	井坂茂夫	秋田徹		横須賀收	山本日出樹	森野正明	宮崎勝	増村道雄	野村文夫	西山徹	高橋道子	永瀬譲史	富谷久雄	土佐寛順	隆元英	篠宮正樹	佐々木健	斉藤万比古
小林繁樹	萬仲子	石毛俊行	五十嵐忠彦	昭54	渡邊浄	若林正治	吉原俊雄	吉澤卓	山上岩男	塚田純子	花岡明宏	中村弘	得丸幸夫	寺井勝	武永博	鈴木文晴	小林敏生	石川てる代	荻野幸伸	宇田川晃一	上田源次郎	石川洋	新井貞男	昭53	山田善重	湊明	松岡明	堀部和夫	福田薫	檜前薫	中山大典	中沢敏信	高橋啓一	須田純	小林純	久保田浩一	北澄忠雄
近藤福雄	小林進	今関文夫	伊澤英次		和田二郎	李元浩	吉田英生	山口哲生	森照男	三瀦忠道	野々村裕子	仲田勲生	徳重克彦	塚本哲也	高良健司	菅沢寛	川俣泰男	織田成人	遠藤和男	上野泉	伊藤公道	安徳純		山口孝幸	松前吉雄	升田吉雄	古川明夫	兵頭明夫	林和也	中村勉	塚田和美	高田俊一	鈴木孝雄	小林彰	木村正幸		
松村竜太郎	福武敏夫	松本俊一	長谷川潔	中村広志	友利秀憲	道永麻里	鈴木裕子	繁田美香	川副泰成	加藤邦彦	小川利隆	伊藤博	足立武則	昭56	湯口恭利	前田勝久	水見寿治	蓮沼桂司	野田和男	永井將道	十川康弘	田中篤	須藤義夫	柴橋博之	栗原和男	神崎哲人	雄賀多聡	有我隆光	昭55	吉田弘道	福田幾夫	中村眞人	鶴田好孝	田川雅敏	鈴木良一	杉浦信之	篠遠仁
松村千恵子	堀内博行	福井章	馬場薫	永島一彰	中島重康	瀧口正樹	清水俊行	座間秀一	亀井克彦	笠松紀雄	岡陽一	伊藤隆	羅智靖	宮崎三忠	藤田京子	水見尚武	橋本尚武	長島通	鳥居俊男	砂田莊一	杉原茂孝	潮平芳樹	久木田親重	長雄一	植松武史	渡辺恒家	宮本北見	林北見	宮崎泉	巽浩一郎	高野正一	杉田克生	下条直樹				

最先端の前立腺がん治療 HIFU

高密度焦点式超音波治療法(ハイフ)

- ✓ 身体に傷がつかない
- ✓ 高齢の方でも治療が可能
- ✓ 入院期間が短い(4~5日)

高エネルギー超音波を前立腺の一点に集め、その部分のみを約90℃の高温で治療します。



早期の前立腺がんに対してのHIFU治療の効果は手術や放射線治療とほぼ同等です。

フランスやドイツ、イギリスで約2000例、本邦でも3000例以上の治療が行なわれ、早期前立腺がんの低侵襲性(身体に傷をつけない)治療として広く認知されています。

我々はHIFUによる限局性前立腺癌治療を選択し、実施しています。
この治療法は保険が適用されないため、自費診療になります。

柏フォレスト腎・泌尿器クリニック 国保旭中央病院 社会保険船橋中央病院 千葉県がんセンター 成田赤十字病院 (50音順)

西島 露口 高梨 下山 桑原 奥脇 岸 市川 赤倉 昭59 森田 丸山 武城 日野 長門 田中 滝口 鈴木 平井 今田 加藤 池田 昭58 山西 守月 幡野 角田 酒井 角谷 島田 下山 小森 小川 ピアス 天野 昭57 湯山 三浦	由美 利夫 一紀 惠美 聡 治郎 雅子 智彦 一郎 昌男 浩 英明 剛 義宣 泰弘 裕一 俊英 真紀子 進 雄一 政文 友典 理 雅彦 隆文 直美 明子 薫 真彦 功夫 真 穂高 琢夫 正義	藤本 中川 高橋 高石 幸田 小野 岡本 伊豫 磯野 山本 宮副 星岡 深沢 西村 豊崎 田島 高木 品田 近藤 亀山 石川 和久 山口 古川 中村 丹沢 龍野 白澤 下山 篠崎 川島 大嶺 岩井 吉川 森永	肇 宏治 弦 聡 圭史 弦 雅臣 史朗 修一 一郎 明 毅 元伸 哲也 和幸 一也 良之 克則 伸吉 信泰 真一 卓秀 敬芳 清吾 秀樹 一郎 浩 直人 克己 利彦 靖 直路 正治 哲文	江畑 秋元 青江 昭62 結城 村上 松永 林 西脇 長門 寺内 園田 沢田 木村 金田 香川 伊藤 石井 安達 昭61 保元 森嶋 林 鍋谷 豊根 田邊 坂井 興村 木元 北川 佐藤 石島 有田 阿部 昭60 持田 光永 星野	龍樹 英里 知彦 崇夫 康二 保 偉明 哲二 文子 隆司 昌毅 貴志 直弘 庸一 宏文 浩 智江 明彦 友一 秀樹 圭宏 知明 信宏 誠一 義孝 正史 憲一 典子 秀紀 洋右 恭久 晃 育男	大曾 坂本 青柳 渡辺 村松 三浦 古谷 萩原 西村 中澤 高谷 須藤 佐藤 菊地 加藤 今牧 石井 有田 吉野 師尾 宮澤 並木 堂垂 豊沢 鈴木 古口 窪田 北崎 菊野 岡田 五十嵐 安藤 渡辺 村井 松原	根義輝 明美 正彦 啓治 俊範 信之 雄三 雅司 美樹 亨 美成 知子 晴彦 浩之 直也 瑞浦 光司 誠司 薫 郁 幸正 隆雄 伸治 忠 昌彦 德雄 等 薫 朝志 章 聡 和義 尚之 久裕	原木 花澤 手塚 田垣 関根 須関 杉戸 佐粧 北村 植田 平元 渡部 横手 村岡 丸 松井 仲野 中世 白井 佐藤 小林 金井 柿沼 内田 石井 青木 昭63 安原 松江 佐藤 中馬 関川 新見 佐藤 三枝 呉 熊谷 朝比奈	真名 豊行 健太郎 祐吾 郁夫 馨 一寿 孝久 哉 健 良夫 秀樹 泰司 芳文 公一 昭 俊 欣夫 文彦 由彦 佳孝 秀始 俊郎 晃一 弘之 敏 敦 敏彦 将泰 直秀 敬史 青洋 匡也 美	平栗 濱野 中島 知久 高瀬 須藤 鈴木 真田 金 菊池 渡辺 茂木 三木 松下 中村 德山 杉浦 獅子 小松 黒須 笠原 宇野 石川 安達 山口 松永 福田 野首 田島 菅谷 志賀 佐々木 今野 小山 加藤	雅樹 ナナ子 毅 毅 完 真 実 昌彦 世 周一 繪里 健司 隆司 一之 一郎 童彦 敏之 尚也 靖紀 輝彦 佳宏 浩史 正訓 浩之 光弘 康夫 啓之 英敏 一 慎 秀彦 大介	樋口 貞広 阪井 小泉 奥山 梅澤 磯部 阿部 平4 三池 松本 宍倉 中島 諏訪 清水 斎藤 小島 倉持 石塚 市川 早川 平3 吉村 丸山 中川 高柳 鈴木 佐藤 川名 岡本 小風 太田 石和 安藤 平2 八木 南野 船橋	佳則 智仁 守 健一 恭子 正美 公一 雄造 聡 伸行 聡 一 光一 公一 雅彦 博之 宏明 千秋 睦 紀史 史 一 建志 淳也 宏 秀忠 和久 真 暁 真 裕彦 策郎 毅典 徹 仲禎	獅子 高瀬 櫻井 小宮 加藤 遠藤 井上 石井 三浦 土井 二村 福山 白鳥 鹿間 小林 小島 草塩 今井 天野 湯浅 藤井 田中 鈴木 清水 五月 勝見 岡田 大湖 老沼 石川 宮内 皆川	原薫子 一嘉 健一 里 宏 淳 徹 文彦 茂治 静子 郁修 享 毅 弘一 成 彦 直樹 晋 讓治 洋人 栄司 隆 明 吉弘 徹 文彦 弘 文彦 英聡 真規
--	---	--	---	--	---	---	--	---	--	--	--	---	--	---	---

25,000冊の在庫

スピード配達

医学書はもちろん、歯学書、薬学書、看護学書から
 検査・X線・リハビリテーションなどの隣接領域まで広範囲にカバー!

「すぐに読める」と好評のスピーディな配達システム。
 豊富な在庫&宅配便などを活用し最短時間でお届けします。

医学書専門



株式会社 志学書店

[千葉大学医学部前]

〒260-0856 千葉市中央区亥鼻2-2-5

E-mail mail@shigakushoten.co.jp

HP URL http://shigakushoten.co.jp

TEL 043-224-7111

FAX 043-222-8600



天野 景治	平5 吉田 克彦	矢花 孝文	三橋 繁	町田南海男
太田 詔		山本 正二	谷嶋 隆之	三橋 修
深町 唯博	花岡 英紀	徳永 進	関谷 武司	岸 宏久
福田 和司	原佳奈子	中村 晃	奥佳代	坂尾誠一郎
小高 謙一	大鳥 精司	鵜飼 伸一	平6 増田 真一	藤本 善英
笠川 隆玄	唐木 千穂	碓井 宏和		本橋新一郎

門野源一郎 黄舜範 伊藤彰一	河野世章 齋藤武 平11 岩田剛和 上原淳太郎	諏訪園靖 宗永元 岩田剛和	高森尉之 大門雅夫 上原七生	松尾幸治 丸田哲郎 木下香	水島川俊夫 吉田元 西村基	金子透子 神作憲司 松浦玄	平7 木原真紀 陣内彦良 宮本牧	竹内男 武田真一 矢野浩二朗	野村知弘 服部功太郎 長谷川宏美	松井由紀子 橋本光宏 椎名明大	東守洋 細井郁芳 栃木直文	前田仁士 松本桂子 野口美香	溝淵輝明 宮内秀行 森谷純治	平8 村田勝宏 横張賢司 平13 森谷純治	浅井利大 阿部敦 岩澤真理	天野佳子 井上博 李忠之	岡田尚子 岡本英輝 平14 上野高尚	小倉孝一 川名有紀子 上野高尚	玉井恒憲 千葉哲博 清水怜	豊田玲子 豊田智彦 吉井淳	菱木はるか 平野剛 平15 吉井淳	平野好絵 和田曉彦 上原孝紀	伊豫田稔 志田崇 高橋宏	富田美佳 河村治清 土居厚夫	沼田理 星山琇 野口佐綾香	河野千代子 照井エレナ 宮城正行	鈴木修一 多田弘子 平16 有川俊輔	多田素久 田宮重堂 岡山大	外岡亨 日暮浩美 杉山雅彦	平10 日暮真由美 山本憲子 山本憲子	窪田真理子 愛波淳子 仙波宏章	窪田真理子 照井慶太 渡辺美佳	藤井朋子 溝口雅子 高瀬正幸					
平18 金井慎一 齊藤景子	高市麻貴 高本真己子	田所重紀 永井勝也	野村亮太 渡邊大智	平19 野村亮太 渡邊大智	佐藤明男 武藤剛	平20 山川貴業 吉村健佑	片桐諒子 武内祥子	平21 松岡歩 吉村晶子	吉原晋太郎 吉村晶子	喜多和子 菅谷茂	橋正道 菅谷茂	環境労働衛生学 北原漠	井上雄元 北原漠	能川浩二 北原漠	熱海佐保子 門田朋子	森千里 門田朋子	公衆衛生学 小山虎信	萩野彰 竹腰昌明	関根憲治 水野武昭	羽田明 水野武昭	安戸一皓 水野武昭	法医学 水野武昭	佐藤彌生 茂谷久子	麻酔学 茂谷久子	伊賀恵美子 高地光世	呼吸器内科学 高地光世	清水栄 宮崎瑞明	橋爪一光 宮崎瑞明	診断病理学 中谷行雄	田那村宏 中谷行雄	神経生物学 小林賢二	小平昌 小林賢二						
代謝生理学 桑木共之	眼科 石渡東海	高綱陽子 山中三千代	渡部美博 山中三千代	脳神経外科学 永野修	石川徹 永野修	遺伝子生化学 岩瀬克郎	芦野洋美 岩瀬克郎	腫瘍病理学 張ヶ谷健一	北川元生 張ヶ谷健一	古木新 三方一澤	泌尿器科学 梶本伸一	石引雄二 梶本伸一	茂田安弘 鈴木文雄	富岡進 角谷秀典	真鍋溥 角谷秀典	病原分子制御学 野田公俊	薬理学 門田健	井上優 門田健	中谷晴昭 門田健	野呂瀬一美 青才文江	守正英 青才文江	分子生体制御学 青才文江	木村定雄 青才文江	細胞治療内科学 風戸豊	池上智康 風戸豊	小林淳二 齋藤康	清水公子 齋藤康	臓器制御外科学 齋藤康	鈴木啓之 齋藤康	皮膚科学 伊藤文子	黒田啓 伊藤文子	佐藤千鶴 伊藤文子						
分子病態解析学 米満博	形態形成学 豊田二美枝	年森清隆 豊田二美枝	外山芳郎 森山行雄	発生生物学 齋藤哲一郎	齋藤哲一郎 齋藤哲一郎	動物病態学 伊勢川直久	伊勢川直久 伊勢川直久	生殖機能病態学 小林章弘	小林章弘 小林章弘	小野寺勉 葛田憲道	小野寺勉 葛田憲道	芳野春生 生水真紀夫	遺伝子制御学 宮武昌一郎	中島裕史 宮武昌一郎	分化制御学 近藤正大	内田昭夫 近藤正大	免疫発生学 中山俊憲	小児病態学 花城恵美子	阿部博紀 花城恵美子	太田節雄 金澤正樹	川上武子 上林直子	多田裕司 露崎俊明	渡辺福 露崎俊明	整形外科学 篠原寛休	小野崎晃 篠原寛休	鈴木弘祐 武内重樹	鈴木秀文 武内重樹	田波秀文 土屋恵一	渡辺英一郎 土屋恵一	耳鼻咽喉科学 鎌田慶市郎	岡本美孝 鎌田慶市郎	岡本美孝 鎌田慶市郎	亀谷秀夫 小関洋男	橋昌孝 山越隆行	三橋麗子 山越隆行	腫瘍内科学 宇野沢隆夫	足立公代 宇野沢隆夫	奥田桂子 越後貫道子
川島柳太郎 久原厚生	小林千鶴子 佐久間淳	及川貞 須田恵	多田式江 寺田洋臣	馬場勇次 日暮協	矢沢孝文 米満裕	伊藤俊夫 米満裕	精神医学 米満裕	日下忠文 米満裕	放射線医学 伊東久夫	荒居龍雄 伊東久夫	遠山富也 中村修	呼吸器病態外科学 吉野一郎	恒元博 吉野一郎	細胞分子医学 太田要生	岩間厚志 太田要生	循環病態医科学 小室一成	江原和枝 小室一成	杉林昭男 元山妙子	宮内郁枝 諸岡信裕	臨床分子生物学 諸岡信裕	石山信之 鶴澤一弘	内山清春 大木保秀	小原克訓 小野可苗	木村孝雪 工藤逸郎	大川和子 坂本洋右	佐藤和子 椎葉正史	佐藤和子 椎葉正史	嶋田健 翠川鎮生	盛永智子 横江秀隆	先端応用外科学 横江秀隆	伊賀浩 海宝雄人	久保田亨 佐久間洋一	篠原靖志 神宮和彦	原田昇 神宮和彦	元山逸功 神宮和彦	生命情報科学 神宮和彦	田村裕 神宮和彦	

新同窓会館設立お祝い申し上げます。

千葉 蓮池

丸万壽司

千葉市中央区中央 3-7-11 〒260-0013
TEL.043(222)3414 FAX.043(225)5335

http://www.maruman-sushi.com/ Eメール:mail@maruman-sushi.com

心臓血管外科学
松宮 護郎

手術部
飯寄 奈保

総合診療部
生坂 政臣

薬剤部
大森 栄

先端和漢
笠原 裕司

43クラス会
のほな同窓会

七葉会(専25)
五窓会(専23)
八千会代表大沢弘和(専26)
葉々会

昭和61年卒同窓会
矢作会代表永野俊雄(昭30)

新のほな同窓会館設立事業について

建物・設備等整備委員会委員長 田邊 政裕

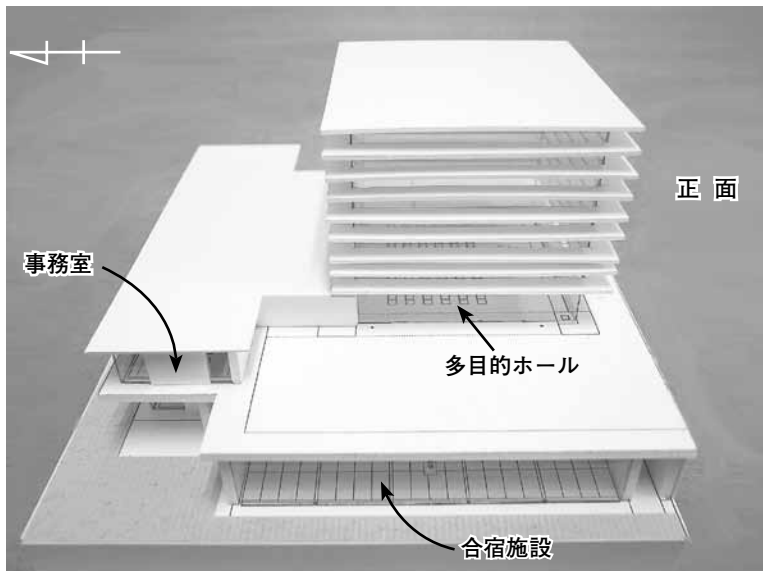
新のほな同窓会館の建築は、現在、実施設計の段階まで進みました。毎月、設計、建築の担当者や打ち合わせを重ね、会館の詳細を詰めています。学生用の約100㎡の会議・合宿施設のあるフロアーでは、トイレ、シャワールーム、洗いの場の拡張、新設、メインホール、同窓会事務室のあるフロ

アーでは、倉庫、多目的トイレの増設が提案されています。これによって学生、事務員、来訪者の居住性、利便性の改善が期待されます。

今後の予定は、5月中旬に実施設計を完了し、10月中旬までに入札を行い、12月初旬に着工、2012年12月初旬に竣工予定となっております。

す。しかし、震災の影響もあり、この予定は大幅にずれ込む可能性もあります。設計担当者からの新たな提案により、当初の予定よりも30%以上延床面積が増加しました。これによって

工事費の増加が見込まれます。限られた財源で、どこまで理想の新のほな同窓会館を実現できるか、不透明な状況ですが、ご寄付をいただいた皆様のご期待に応えられるように、新たな亥鼻のシンボル構築に向けて、伊藤のほな同窓会長のもと関係者のご協力をいただき尽力させていただきます。



新のほな同窓会館設立事業会募金状況報告書

2011.3.31 現在

寄附者	千葉大学基金		るのほな同窓会寄附金		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
企業等	120	44,274,000	14	2,890,000	134	47,164,000
教職員 (元職員も含む)	164	20,162,000	112	3,380,861	276	23,542,861
同窓会会員	1,426	110,300,000	900	37,913,745	2,326	148,213,745
後援会会員	66	4,838,000	49	2,730,000	115	7,568,000
合計	1,776	179,574,000	1,075	46,914,606	2,851	226,488,606

千葉大学るのほな同窓会保険ご加入の先生へ

この度の東北地方太平洋沖地震・長野県北部を震源とする災害で被災された先生方には心よりお見舞い申し上げます。

ご加入いただいております保険の適用につきましては次の通りとなります。

勤務医師賠償責任保険にご加入の先生方は、国内に於ける全ての医療行為、所得補償保険にご加入の先生方は、天災(地震・噴火・津波を含む)を原因とする怪我、疾病による就業不能が補償の対象となります。また、基本的に補償対象外とされている医療保険についても、この度の震災における怪我、疾病については補償対象とすることが保険会社で決定されています。万一の際は幾ばくでもお力になればと存じますので、随時お問い合わせ下さい。

被災地、その他の地域で医療業務を行っておられる先生方、余震も続いております。どうぞ呉々もご留意下さい。

メディカルリスクマネジメント
千葉大学るのほな同窓会保険担当

株式会社 パイオニア
代表取締役 川久保 文男

Tel: 0120-36-8442
Fax: 0120-36-1061
Mail: pioneer.kawakubo@nifty.com
http://www.pioneerltd.com/

雑文雑談 信太歌之助の事

石出猛史(昭52)

銚子の人。幕末から明治にかけての柔剣術家で幕臣。幕府講武所の師範を勤めた槍の名手旗本高橋(泥舟)伊勢守の義弟。幼名を熊吉といい、天保8年(1837)2月24日下総国海上郡高上村(現銚子市犬吠・外川界限)で寺子屋を経営していた青柳彦右衛門の第五子として出生(江戸本郷の生れともある)。弘化4年(1847)十一歳にして筒井藤雄の門に入り武芸を修める。安政6年(1859)12月小伝馬町に道場を開いて柔・剣術を教授する。元治元年(1864)同郡荒野村(現銚子市中央町・双葉町)の剣術道場主信太鉄之丞(鉄州)の養子となる。

明治元年(1868)江戸に入り、徳川慶喜の護衛の任にあたる。時期は不明であるが、歩兵差図役格軍事掛手附に任命された。同年3月3日総房鎮静方取締として、房総三州(上総・下総・安房)を廻村するように命ぜられた。房総鎮静方とは、治安維持と組合村の強化安定を目的として、大政奉還後の徳川藩の存続維持を図ろうとしたものとい

われている。一種の宣撫工作でもある。歌之助は荒野村に鎮静方の役所を置いたが、養父鉄之丞の居室であろうか。同年7月20日同役所で肥前藩(熊本細川氏)鎮撫府によって逮捕され、同23日江戸の札問屋の牢屋に入れられた。八畳敷の牢に36人が押し込められたという。同年9月20日小伝馬町牢屋敷の揚り座敷に移送された。翌2年2月25日裁判にもかけられず放免された後、刑法官の捕亡司判事に任ぜられ、5月12日には伝馬町牢屋敷の責任者囚獄知事となった。獄制の改革が主な責務である。食事の内容、衛生環境の改善を行った結果、それまで一日平均17名が死亡していたのが、一人もいなくなったとしている。その後薩摩藩々士で当時奈良県知事を勤めていた海江田信義の誘いを受けて奈良県に奉職した。歌之助は入牢中、幕府陸軍奉行松平太郎が松前城を占拠した際、斬首されそうになったのを、勝海舟と山岡鉄舟が

西郷隆盛と海江田信義に嘆願して助命されたのだという。山岡鉄舟は前述の高橋伊勢守の義弟である。従って歌之助と鉄舟も義理の兄弟ということになる。後年旧大名相馬子爵家の御家騒動の際に歌之助の名前が出てくる。年次も事実関係も確認はできないが、坂本龍馬が歌之助に柔術の試合を挑んで二度共勝てなかったという記述もみられる。養父鉄之丞は銚子の旧家の出身で、江戸で幕府の講武所総裁を勤めた男谷信友に剣術を学ぶ。島田虎之助・榊原健吉らと同門である。帰郷して塾を開いていたが、元治元年(1864)のいわゆる天狗党騒動の際には、高崎藩々主(松平氏)当時銚子は高崎藩領であった)の命により、門人百名を率いて常陸那珂湊に出陣し、反射炉での激戦に功があった。同年11月5日帰郷したが、同12日俄に病を発して急死した。墓は銚子の威徳寺にある。明治22年(1889)銚子に警察署が設置された際には、鉄之丞宅が宛てられている。直真影流榊原健吉の後継者で『日本剣道史』を著した山田次郎吉(君津郡富岡村出身)が、幕末日本一の

剣客として挙げている木更津出身の中村一心斎(一説には熊本藩々士とも)、佐倉藩々士にして立身流宗家で明治の警視庁剣道師範を勤めた逸見宗助など、千葉県にも剣客は少くないのだが余り知られていない。江戸・京都で活躍した人物が少ないためであろうか。

第105回 医師国家試験成績

Table with 2 columns: 試験日 (平成23年2月12日(土)・13日(日)・14日(月)), 合格発表日 (平成23年3月18日(金)), 受験者 (114名), 合格者 (107名), 合格率 (93.9%), 参考 (国立合格者4,053名, 合格率90.4%; 全合格者7,686名, 合格率89.3%)

学内情報

千葉大学大学院医学研究院附属 子どものこころの発達研究センター開設

子どものこころの発達研究センター長 千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学教授 清水栄司(平之)

2011年4月1日付けで、関係者の諸先生方の多大なお力添えにより、千葉大学大学院医学研究院に「子どもこころの発達研究センター」が新設されました。大阪大学、金沢大学、浜松医科大学、福井大学と連携した当センターは、心理学的治療部門、行動医学部門、認知情報技術部門、こころの地域ネットワーク支援室、Age2企画室の五部門を設置し、児童思春期のメンタルヘルスを支援する認知行動療法法の教育研究事業を推進します。同窓会の先生方におかれましては、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

おくやみ

- 石橋 弘(日本歯昭10), 河野 三郎(昭11), 鈴木 英夫(昭11), 谷口 慶亮(昭11), 正宗 幹夫(昭14), 蛭名寿家夫(昭16), 倉田 博夫(昭16), 吉江 俊夫(昭17), 榊原 勇一(昭18), 久保田 宏(昭18), 藤代 国夫(昭19), 松山 茂郎(昭19), 岩崎 力(昭19), 小林 愿之(昭20), 小竹原秀雄(専20), 斎藤 次郎(昭21), 加藤 周(昭22), 村井 武彦(昭22), 桑原 稔(慈恵大昭23), 阪井 程夫(昭24), 砂山 孝(昭24), 早田 正敏(昭24), 横田 茂(昭24), 石井 克巳(専24), 市村 公正(専24), 斎藤 喜雄(専24), 島田 達雄(専24), 大浦 純(熊本大専24), 飯島 治之(専25), 吉川 幹郎(専25), 細田 裕(昭26), 菊島 竹丸(専26), 多田 桂一(専26), 高野 文夫(釜医大昭26), 近藤 茂(専27), 壬生倉 勝(専27), 澤田 勤也(昭28), 塚本 勉(昭28), 荒川 直人(昭29), 有馬 道男(昭29), 植松 哲(昭29), 小出 紀(昭29), 豊田 義男(昭31), 日暮 協(日本大昭32), 石川 恭子(昭33), 門田 健(大阪大昭34), 植松 貞夫(昭35), 北方 勇輔(昭35), 草野 史朗(昭35), 米満 道子(昭39), 山中 義秀(昭40), 神谷 定茂(昭41), 和田 力(昭44), 西山 徹(昭50), 長谷川浩平(昭52), 斎藤 雅人(昭和大昭53), 矢吹 清美(平8)

被災会員に対する支援のご案内

3月11日に発生した東日本大震災による、犠牲者の方々のご冥福をお祈り申し上げますと共に、被災された皆さまに、心からお見舞い申し上げます。

るのほな同窓会といたしましても、被災された会員の方々を支援すべく、様々な努力をしております。すでに、日頃同窓会活動でご協力をいただいております企業などより、見舞金を本会へ拠出する旨の申し出が来ております。会員の皆様におかれましては、被災会員の情報をるのほな同窓会事務室（電話：043-202-3750）までご一報下さいますようお願い申し上げます。

なお、被災会員へのお見舞金につきましては、企業や団体、あるいは個人にかかわらず、下記口座にて受け賜っております。

銀行口座 千葉銀行本店営業部 普通3918478
名義 るのほな同窓会 東日本大震災救援募金
代表 伊藤 晴夫

千葉県るのほな会平成23年度総会・特別講演

総会日時 平成23年5月28日（土曜日）16：00～17：00
会場 京成ホテルミラマーレ 8階 オーキッドルーム
特別講演 17：30～18：30
演題 「原発事故と医療者の対応」
Medical Response to Nuclear Accidents
演者 Dr. Robert Peter Gale
visiting Professor in the Hematology Division
Imperial College, London
共催 千葉市医師会／後援 千葉県医師会
会費 1万円（懇親会費込み）、千葉県るのほな会会員外の方も参加可。
会員外の参加希望者は下記へお申し込みください。
Tel: 043-202-3750, Fax: 043-202-3753
E-mail: indoso@graduate.chiba-u.jp
ゲイル先生から講演料は全額大震災被災者への義援金としてご寄附されるとの申し出がありました。

講演内容

チェルノブイリ原発事故から四半世紀が経った節目の年に偶然にも福島原発事故が発生し、放射能被曝による健康への影響に対する関心が急速に高まった。チェルノブイリ原発事故だけでなく、東海村の臨界事故の際も被曝障害治療専門家の第一人者として活躍されたゲイル先生は今回の福島原発事故に強い関心を持ち、震災直後に来日し、記者会見で効果的に原発事故を対処するには政策決定、公衆教育、医療的な介入等を含めた多面的な戦略が必要と力説し、大きな反響を呼んでいる。当日医療関係者はいかに正しく原発事故の実態を認識し、適正に対応すべきかについてお話を伺う予定。

懇親会 19：00～20：30

第13回るのほな同窓会学外研究助成募集要項

第13回（2011年度）るのほな同窓会学外研究助成の応募を左記により受け付けます。

一、助成対象 本会会員で、大学およびそれに準ずる研究所以外の施設に勤務している医師および歯科医師が、個人またはグループの代表となつて行う研究。

一、助成金 本年度助成総額は40万円。

一、応募方法 6月1日から7月31日までに申請して下さい。

一、助成研究の決定 選考委員会および常任理事会の議を経て、会長が行います。

審査結果は2011年11月末までに各申請者に通知すると共に、るのほな同窓会報に掲載します。

一、問い合わせおよび申請用紙請求先

千葉大学医学部内るのほな同窓会事務室（申請用紙は同窓会ホームページよりダウンロードすることもできます）



編集後記

今回の東日本大震災では、この会報を読んでいる方やそのご家族でも被災された方がいらつしやることと思えます。この場を借りて、心よりお見舞い申し上げます。

この震災で、かけがえないものが数えきれないほど多く失われました。この現実を受け止めて、私達は試行錯誤しつつも、より良い社会に向かって歩み始めなければならぬと思います。

本会報は年3回（1月、5月、9月）発行されていますが、毎年5月に発行さ

れる号では組織のトップの先生方のご挨拶、最終講義が特色です。今回はそれに加え、卒業証書伝達式、第1回白衣式のるのほな同窓会長のご祝辞と白衣式（写真）が掲載されています。

るのほな同窓会員の先生方に母校の現状や変化を少しでもお伝えできればと思います。その他は、他月号と同様にるのほな同窓会会員に関する情報などが掲載されています。

私は昭和62年千葉大を卒業後、千葉を離れ、平成18年に千葉（皮膚科）に戻っ

てまいりましたが、その間、届けられた会報を寝ころんで懐かしく読んでいたのを思い出します。そのとき抱いた感想を思い出すと、これだけコンパクトで情報がつまつていて無駄な記載の少ない会報は、さすが母校だなと漠然と感じていました（一読者としての感想）。

編集委員のひとりとしてこの伝統ある会報が会員の皆様にとって少しでも意義あるものになればと願っております。

松江弘之（昭62）